

テストバッテリー有効活用のための研究

～「確かな学力」の向上を図るために一人一人に応じた学習指導の改善を目指して～

1. 研究主題設定の理由

学習指導要領では、総則第1の1において、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童・生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」としている。

また、「足利市の教育目標」の52番に「基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける」ことを児童期及び青年期の重点目標として掲げており、その具現を目指し、各学校において取り組んでいる。

さらに、本市教育委員会では、指導計画に「教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる教育活動の展開」を掲げ、わかる授業の展開、一人一人の学びの成長の把握、共に学び合う人間関係づくりに視点を当てて学習指導の充実に目指している。

本市では長年にわたり、小中学校において、学びの成長の把握のために、知能検査、標準学力検査、学習適応性検査を組み合わせたテストバッテリー調査を実施しており平成25年度からは、中学校において、実施教科を国語、社会、数学、理科、英語の5教科として実施することとした。

このテストバッテリー調査結果には、あらゆる角度から分析された生徒の個性理解にかかわる貴重なデータが掲載されている。テストバッテリー調査結果と教師の日常の観察等から捉えた生徒の学習の状況を学習指導に生かすことにより、基礎・基本の定着と「確かな学力」の向上に寄与することができる。

このようなことから、テストバッテリー調査結果の分析と活用の在り方を研究し、一人一人に応じた学習指導の改善を目指すために本主題を設定した。

2. 研究の基本的な考え方

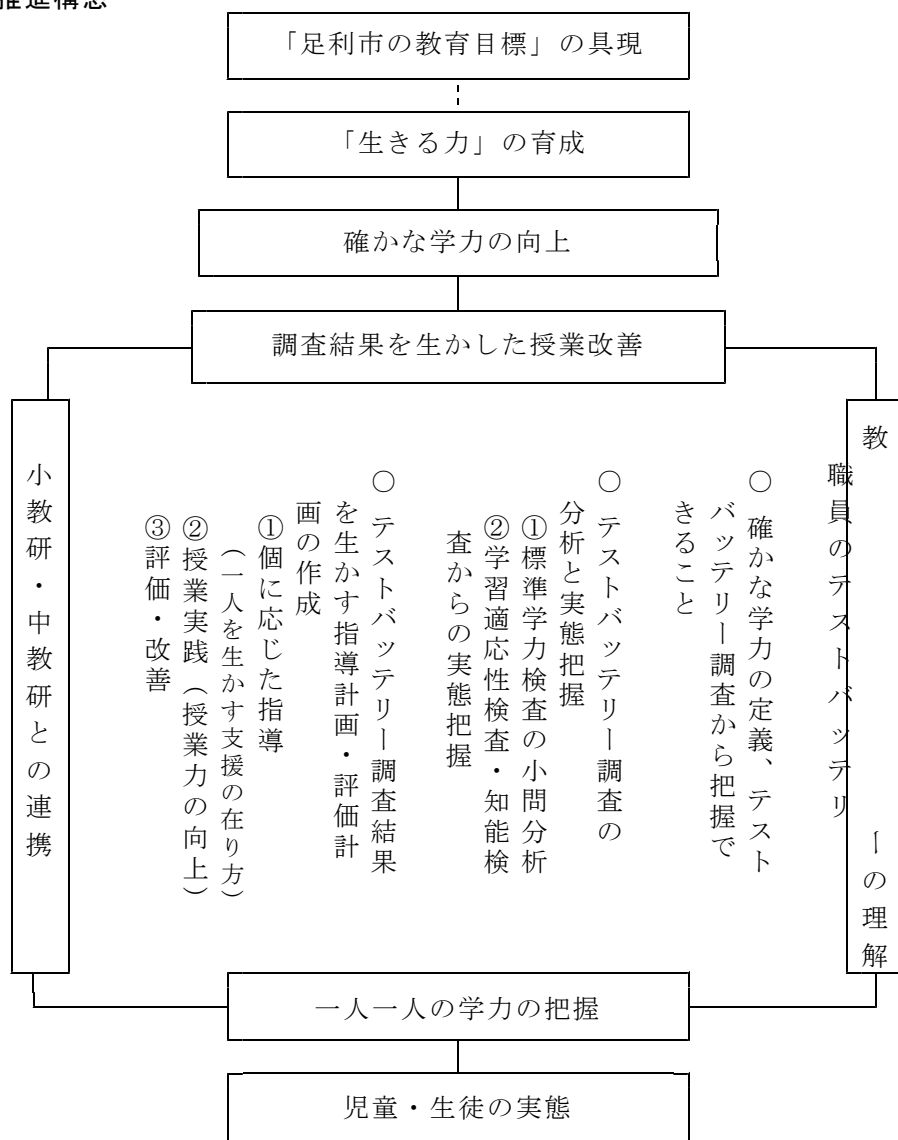
生徒一人一人の多様性を認識し、その生徒の学習状況の把握に努めることによって、生徒の側に立った学習指導の改善に努める。

また、学習指導要領における「生きる力」や「確かな学力」などの定義やテストバッテリー調査結果の分析を通して、把握できることなどについて理論研究に努める。

さらに、理論研究結果を踏まえ、テストバッテリー結果の学習指導への具体的な生かし方を構想し、授業実践を通して検証するという実践的な研究に努める。

研究の推進に当たっては、中学校教育研究会などの関係機関と連携を行うことによって、研究結果をより実践的なものとする。

3 研究推進構想



4 研究の内容

(1) 「生きる力」とは

新しい学力観に立つ学習指導においては、生徒一人一人が、豊かな自己実現を図れるよう、「生きる力」を身につける学習指導の展開が求められている。そこで、本研究においてはまず、「生きる力」とは何かを捉えることから研究を進めることとした。

1) 「生きる力」

これからの生徒に必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他者を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性である。

これは、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康と体力」の3つの要素からなる力と捉えられる。

2) 「確かな学力」

知識・技能に加え、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めた学力と捉えられる。

(2) テストバッテリー調査における各種の検査について

生徒の実態を生かす学習指導の展開に当たっては、生徒一人一人を把握するところから始めなければならない。実際、教師は共感的な生徒理解に立って、日常の生徒との様々なかかわりを通して、実態を把握している。

しかし、より科学的にまた客観的に捉えるためには、各種の検査結果や複数の検査を組み合わせたテストバッテリー結果を活用することが必要になる。

そこで、本市で行うテストバッテリー調査における検査の概要を確認する。

1) 知能検査

一人一人の個性を生かした学習指導のために、知能を知的機能や学習ペースと学習適性、課題解決スタイルなどから総合的・分析的に把握する検査である。

この検査から得られる総合的な指標としては、知能偏差値（ISS）^{*1}と学習基礎能力偏差値（BSS）^{*2}の2種類がある。^{*1. *2は、後述}

この結果から、学習していく上で必要な知的能力の発達状況や学習適性（どのような学習方法が最も適しているか）なども分かる。

① 知的機能（機能・創造性の特徴）について

本検査によって測定される知的機能は、下の表1のとおりである。また、検査から読み取れた特性をもとに学習意欲を喚起する言葉かけをすることができる。

表1 機能・創造性の特徴と声かけ例

	特性 (能力)	行動目標	概要	言葉かけ例
機能	認知 (理解力)	わかる 気づく	知っている事物の特質を直接気づくこと、わかることであり、新しい知識を獲得する際に前提となる機能。	のみ込みが早いね
	記憶 (記憶力)	おぼえる 思い出す	与えられた情報を覚え、保持し、再現する機能であり、知識の保存に不可欠な機能。	物覚えが良いね
	拡散思考 (発想力)	思いつく 考え出す	与えられた情報から、可能性のある多くの新しい情報をつぎつぎに生み出す機能。問題解決や創造、発明に不可欠である。	いろいろなことを思いつくね
	集中思考 (論理的思考力)	筋道を立て て考える	与えられた情報から、論理的に必然性のある結論を生み出す機能。問題解決学習や論証などで中心的役割をする機能。	考えをまとめるのが上手だね
	評価 (判断力)	確かめる 決める	適否や正誤、善悪などの様々な基準を満たすかどうかを比較したり、判断する機能。学習過程で随時必要となる機能。	確かめがきちんと出来るね
創造性	流暢性	思考の速さ、滑らかさであり、課題に対して、多数の答えを導き出すに関わる特性。		良い考えをたくさん思いつくね
	柔軟性	思考の幅広さ・視点の多様性であり、課題に対して、多種の答えを導き出すかに関わる特性。		考えが柔軟だね

②学習ペースと学習適性

学習ペースは、学習基礎能力偏差値（BSS）によって、速い（BSS55以上・記号：H）、中間（BSS45～554・記号：M）、遅い（BSS44以下・記号：L）で表される。

この指標は、学習過程での中間目標の数をどのくらいにしたら学習効果が上がるのかを判断する材料となるとともに、指導方法を決める際の手立てとなるものである。

例えば、学習ペースの速い子は、学習過程での中間目標の数を少なくし、大きなステップで学習すると効率が良いことがわかり、また、学習目標を短時間でクリアできるので、発展的な課題を与える準備をしておくことが必要となる。

また、学習適性は、Aタイプ（抽象言語型）の学習が得意か、それともBタイプ（感覚運動型）の学習が得意かを表す指標である。その中間は、バランス型となる。学習適性と学習活動との関係は、下の表2のとおりとなる。

表2 学習適性と学習活動

	Aタイプ	Bタイプ
個性伸長のため	<ul style="list-style-type: none"> ・発見学習 ・レポート作成 ・研究発表 ・文集の編集・構成 ・作文（自由課題） ・司会進行 ・討議・ディベート ・辞書の活用（反対語・類語調べなど） ・読書感想文 ・学級新聞・壁新聞の記事づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習 ・観察・実験 ・数値のグラフ化 ・文集の装丁・レイアウト ・図表やパフォーマンスを多用した研究発表 ・パソコンを活用した自主学习 ・図面を見ての実物製作 ・学級新聞や壁新聞の図表やイラストづくり
基礎基本の徹底のため	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・話し合い ・長文学習（段落一全体） ・日記（体験の言語化） ・辞書の利用（語の意味調べなど） ・読書および読書ノート ・テープ・CD教材の活用 ・ことば遊び（課題しりとり・なぞかけなど） 《補充として》 ・図表を読み取らせる ・地図を描かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物提示 ・パソコンを利用した基礎・基本の学習 ・パソコン作図ソフトなどの利用 ・テレビの教育番組の活用 ・絵日記 ・模写 ・ゲーム・演劇 ・グループエンカウンター 《補充として》 ・読み聞かせ・読書習慣づけ ・絵や図の言語化

③課題解決スタイル

知的課題を解くときの特徴を「速さ」と「正確さ」の2つの観点の組み合わせによって表される指標で、知的作業の特質を表している。

課題解決の速さを「速い」・「普通」・「遅い」のいずれかで判定し、正答率によって課題解決の正確さを「正確」・「普通」・「不正確」を判定したものを組み合わせて、9つに分類することができる。（表3参照）

例えば、速くて正確【効率型】な生徒には、一層高度な課題を与え、充実感をもたせ

る。速いが不正確【**性急型**】な生徒には、早めに指名して、誤りに早く気づかせ、再考させるようにしたり、遅いが正確【**慎重型**】な生徒には、考えている途中に指名するというような無駄を省くことができるなど、発問のタイミングや机間指導の順番などを考える指標として活用することが出来る。

表3 課題解決スタイルの9つのパターン

	遅い	普通	速い
正 確	慎重型	着実型	効率型
普 通	悠長型	普通型	迅速型
不 正 確	緩行型	準性急型	性急型

④ その他参考となる指標

ア 知能偏差指数 (D.I.Q: Deviation Intelligence Quotient) 知能指数

知能偏差指数は、知能検査の結果を表す数値である。同年齢集団内での同年齢集団内での位置を基準とした標準得点によって表される。平均水準は、100となる。

算出方法は、「(個人の得点 - 同じ年齢集団の平均) ÷ 標準偏差 × 同じ年齢集団の標準偏差) + 100」となる。 ※標準偏差は、ビネー式の場合は16分の1、ウェクスラー式の場合は15分の1を使用する。

イ 教科成就値

知的構造から推定される学力期待値。総合の学力期待値は、学力基礎能力標準得点 (BSS) から求めることが出来る。

算出方法は、「教科の学力標準得点 (偏差値) - 「知能から期待される学力標準得点 (偏差値)」

ウ 知能偏差値 (ISS: Intelligence Standard Score) ※1

知能の偏差値のこと。知能を偏差値の形で表示したものであり、50を中心として上に行くほど知能が高いことを表している。

エ 学習基礎能力偏差値 (BSS: Basal Standard Score) ※2

学力偏差値と同じ算出方式で、知能検査の結果の個人得点を検査実施月に応じて標準得点 (偏差値) に換算したもの。学力との相関的な利用をより合理的にするために算出される。

2) 標準学力検査

標準化^{※3}された問題を解くことによって、個々の子どもの学習成果 (学力) が全国的な水準に比べて、どのような位置にあるのか。または、どれくらい習得をしている

のかを客観的に捉えることができる検査である。

① 学力検査の種類

集団基準準拠検査（NRT：Norm Referenced Test）と目標基準準拠検査（CRT：Criterion Referenced Test）の2種類がある。

表4 集団基準準拠検査（NRT）と目標基準準拠検査（CRT）の比較

集団基準準拠検査（NRT）	検査の種類	目標基準準拠検査（CRT）
集団(全国)基準に準拠した評価	評価法	目標(教える目標・内容)基準に準拠した評価
相対評価(全国的学力水準と比較して相対的に学力を把握する)		絶対評価(客観的な目標到達基準で到達度を診断する)
評定(相対評価)	結果の表示	評定(絶対評価)
(小学校:3段階)(中学校:5段階)		(小学校:3段階)(中学校:5段階)
尺度=学力標準得点(偏差値)		
確かな学力・基礎的・基本的な学力 自ら考える力(発展的・応用的学力)	測定の対象	基礎的・基本的な学力
1年間の全指導内容を出題し自ら考える力の伸び具合をみるため、未習の問題にも取り組ませる。 未習問題は削除できない。(年度途中の実施でも、実施月別尺度が用意されているので、その時点での全国平均と比較できる)	検査内容と未習問題の扱い	1年間の全指導内容を出題しているが、指導内容にあわせて未習の問題は削除して実施できる。
各学校が同一時間で実施しなければ相対評価ができない。	実施時間	学習した内容のすべてについて身につけているかどうかの確認をするため、未着手の問題が残らないよう延長してもよい。
内容領域別(単元中心)	分析的診断	観点別(指導要録の観点準拠)

② 新成就値

教科平均学力偏差と知能から期待できる総合学力偏差値（ES）を引いて算出される値。知能と比べて、学習効果があがっている生徒を「オーバー・アチーバー」といい、その逆に学習効果が上がっていない生徒を「アンダー・アチーバー」という。均衡している場合は「バランスド・アチーバー」という。

数値については、新成就値が+8以上が、オーバー・アチーバー、また同値-8以下は、アンダー・アチーバーと判定する。（「アチーブメント」は、達成度の意味）

※³標準化：その検査で、測りたいものをきちんと測れるものになっているようにするため、たくさんのデータを集めて、良い問題だけを残すこと、また、そのデータを利用して結果を解釈する基準（尺度）まで兼ね備える一連の手続きのこと。

3) 学習適応性検査 (AAI: Academic Adjustment Inventory)

一人一人の生徒について、学習不適応の状態に陥っていないかどうか、どのような要因の影響を受けているかなどを診断する検査であり、個に応じた指導の手がかりを捉えることができる。

① 学習適応性 (学習の要因) を測る尺度

- ア 学習態度 (学習の意欲・計画性・授業の受け方)
- イ 学習技術 (本の読み方・ノートの取り方・覚え方・考え方・テストの受け方)
- ウ 学習の環境 (学校の学習環境・家庭の学習環境)
- エ 学習活動を支える3つの力
〔自己効力感 (やればできる自信・がんばる力)・自己統制 (セルフコントロール・つづける力)・メタ認知 (自分を見つめる力・ふりかえる力)〕

② 検査から捉えられる主なもの

ア 原因帰属

受検者が、学習場面での失敗の原因を何に帰しているのかを見ている。原因として、能力、努力、課題の難易、運がある。

例えば、努力に原因を求めている場合は、自己向上という面で好ましい傾向であると読みとることができる。

イ 学習スタイル

課題の処理の仕方を、衝動型・中間型・熟慮型の3タイプに分けることができる。衝動型は、反応は早い、誤答が多い。また、失敗の不安は低い。熟慮型は、注意深く、反応が遅い。誤りが少ない傾向にある。中間型は、その中間になる。

(3) 学力検査結果と AAI 結果のクロス集計での活用について

学力検査と AAI との相互利用によって、学級の生徒がどのような状態にあるのか、どのような支援を行っていったらよいかを概観的に把握することができる。

横軸に AAI の評定を、縦軸に学力検査の評定をとり、その位置から生徒の様子を【Ⅰ 学力・学習適応性バランス群、Ⅱ 学力向上支援群、Ⅲ 学習適応性支援群、Ⅳ 個別支援群】の4群に大きく分けることができる。

表5 学力・AAI クロス集計

↑高い	5				
	4	Ⅲ 学習適応性支援群		Ⅰ 学力・学習適応性バランス群	
	3				
学力	2				
	1	Ⅳ 個別支援群		Ⅱ 学力向上支援群	
		1	2	3	4
					5
		AAI			高い→

各群の傾向と支援については、

I 学力・学習適応性バランス群

- ・この群の生徒は、学力検査・AAIの評定がともに3以上であり、両者のバランスがとれている。
- ・日常観察などを踏まえながら、やや高度な内容や応用的な内容に取り組みさせても効果的となる。

II 学力向上支援群

- ・AAIの結果は高いが、学力検査の結果がふるわない生徒である。
- ・学習指導に支援の力点を置き、基礎的・基本的内容の充実を図っていく必要がある

III 学習適応性支援群

- ・AAIの結果は低い、現時点での学力検査の結果はよい生徒である。
- ・学習に対する意欲や取り組みなどに課題があり、その改善が望まれる。「学習の要因」の結果を見て、特にどの分野への支援が必要かを検討することが必要である。

IV 個別支援群

- ・AAIと学力検査の結果がともに低く、早急な支援が必要な生徒である。
- ・意欲の面、学習指導の面など、多面的な支援の方向を探っていく必要がある。

(4) テストバッテリー結果の学習指導への生かし方

テストバッテリーの調査結果を学習指導に活用するためには、教師の指導構想の中に、学級全体の実態や指導構想や抽出生徒の様子などを位置づけることが必要である。

1) 教師の活動と指導案への位置づけ

教師の活動と指導案への位置づけについて、下記のとおり位置づける。

表6 教師の活動と指導案への位置づけ (例)

	教師の活動	指導案への位置づけ
事前	<ul style="list-style-type: none"> ◎実態の把握 (クラス全体と抽出生徒の傾向) ○日常観察やレディネステストから ○テストバッテリーの結果から ◎指導構想の作成 (支援計画と評価計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態 ○抽出生徒について ○研究主題との関連 ○展開計画
事中	<ul style="list-style-type: none"> ◎成果の確認 ○抽出生徒による確認 ○自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点及び評価規準
事後	<ul style="list-style-type: none"> ◎実態の再確認 ○確認テスト、定期テスト他 ◎指導構想の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画、展開計画修正

2) 学級全体の実態把握の観点

<知能検査結果から>

- ・知能偏差値、学習基礎能力偏差値から学習ペースの傾向を把握
- ・学習適性の傾向を把握
- ・課題解決スタイルの傾向を把握

<標準学力検査（NRT）結果から>

- ・小問分析学級・学年集計表から学力の傾向を把握

3) 抽出生徒選出の観点

研究結果の成果を確認するため、学力検査（NRT）や学習適応検査（AAI）のクロス集計結果をみて、学習不適応生徒や特徴のある児童生徒を2～3人抽出する。

<知能検査結果から>

- ・知能偏差値、学習基礎能力偏差値から学習ペースを把握
- ・学習過程や学習教材の活躍場面を把握
- ・課題解決スタイルを把握

<標準学力検査（NRT）結果から>

- ・小問分析、学級・学年集計表から学力の傾向を把握

<学習適応性検査（AAI）>

- ・学習不適応の要因を把握

<日常行動観察から>

- ・性格や特徴の把握



中学校1年国語科の『書くこと』における実践

1 単元・教材名 「故事成語かるた」の言葉を使って、相手にふさわしい文章を贈ろう

2 単元の目標

- ・相手の心情や置かれた状況に合わせ、自分の意見や心情を文章の中に表そうという意欲をもつ。
(国語に関する関心・意欲・態度)
- ・設定された場面や状況の中から、文章を贈る相手を選び、自分の意見や心情が相手に効果的に伝わるように自分の思いを書く。
(書くこと)
- ・故事成語の由来や意味に触れ、古典には様々な種類の作品や言葉があることを知る。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領の第1学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること」と、「書くこと」の「ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」を受けて、設定した。

生徒は日頃から論語素読を行ったり、故事成語かるたを行ったりと古典に親しんでいる。故事成語に表されたものの見方や考え方に触れ、故事成語に表された言葉を想像しながら、現代の生活の中にも生きる古典の世界を生き生きと感じさせ、古典には様々な作品や言葉があると気づかせたい。また設定された場面や状況の中から、文章を贈る相手を選び、自分の意見や心情が相手に効果的に伝わるように自分の思いを書かせることによって、相手意識や目的意識をもち、伝えたい内容を明確にして書くことを学ぶことができると考える。

(2) 生徒の実態

体育祭や合唱コンクールなどの学校行事を終え、学級としてのまとまりが出てきて、授業に対しても積極的な取り組みが目立ってきている。普段の授業では挙手・発言も多く、自分の意見をしっかり言える生徒が多い。分からないことは、積極的に質問し、理解できるまでクラス全体で考えていくような面が見られる。作文の授業では、書く能力が高い生徒は、短時間で明確な作文を仕上げることができる。しかし、何人かは書く内容につまずき、抽象的に書いた文2～3行で終わってしまい、文章が続かない。そこには語彙力の乏しさもあるが、何をどう書けばよいのか分からない生徒もいる。また、古典の朗読や暗唱などには意欲的だが、古典に対して苦手意識をもっている生徒が多い。古典の世界と自分たちの生活との関連性を見いだせないようであり、そのことが興味・関心の低さにもつながっているようだ。本教材では故事成語が、現代の自分たちの生活にも十分生かせるものだという事に気づかせ、古典と現代の世界をつなげて考えられるようにさせたい。

(3) 指導観

本時の授業は、「故事成語かるた」の言葉を相手に贈ることで、現代と古典の世界をつなげ、古典に親しませるためのものである。そのためには、①「故事成語かるた」に選ばれた言葉の意味を理解し、②それを相手の状況に合わせて選び出し、③自分の思いと合わせて表現する、という学習過程を生徒自身に対してしっかりと明示しながら作業が進められるよう工夫したい。

また、指導にあたっては、評価基準を念頭に置きながら適切な助言を行い、指導と評価の一体化を図っていきたい。

4 研究主題との関連（テストバッテリーの結果から）

(1) クラス全体の傾向

○知能検査より

- ・学習ペースは、約8割の生徒が標準以上のペースで学習を進めることができる。
- ・学習適性は、約4割の生徒がバランスタイプであるが、約4割の生徒がAタイプである。Aタイプの生徒は、言語的な能力を生かした指導を行う必要がある。そこで、説明を聞く、文章を読む、話をする、文章を書くなどを得意としているので、そのような指示を取り入れた授業を展開する必要がある。
- ・課題解決スタイルは、やや性急な傾向にある。そのため、速いが不正確なものが多い。できるだけ時間をとって、ゆっくり正確に進めるように努めたい。

○学力・AAIクロス集計より

- ・Ⅰ：学力・学習適応バランス群が多く、全体としてバランスがとれている。Ⅱ：学力向上支援群、Ⅳ：個別支援群の生徒への対策としては、教材、グループ編成、机間指導、発問の工夫、具体的な手だてや活動の場を設定したい。

○NRT検査・国語科の分析診断表より

本学級の国語科における大領域ごとの学力を全国正答率と比較すると、『伝統的な言語文化と国語の特質』については全国正答率と同程度であるが、『読むこと』『書くこと』『話すこと・聞くこと』はやや低い。中領域は、「適切に話し合うこと」「表現の効果を確かめ、正しく書く」「説明的な文章を読むこと」が低い。

小問分析表より、「要点をまとめる」の正答率が極端に低いことから、普段から自分で考えをまとめて書くことを繰り返し行う必要がある。

現の効果を確かめ、正しく書く」「説明的な文章を読む」「文学的な文章を読む」ができていない。段落のつながりを理解させ、文章の読解と言葉の知識を増やすことを中心に指導していく必要がある。

《生徒B》

ア 日常の観察や調査等から

クラスの中では積極的に班長をやっている。また、友達に対して面倒見がよく、友達もBを頼りにしている。判断力や発想力が高い。文章の内容は、着想がおもしろいが、それを表現する表現力が乏しい。授業では挙手は少ないが、意欲的に取り組んでいる。アドバイスをお互いにもらうような場面を取り入れ、意欲をかきたてていきたい。

イ テストバッテリーの結果から

○知能検査より

- ・機能から見た特徴：評価
- ・学習ペース：M
- ・学習適性：抽象言語型
- ・課題解決スタイル：普通型

○AAIより

- ・学習の要因：おおむね2～3、「学習の意欲」「計画性」「本の読み方・ノートの取り方」「自己効力感（がんばる力）」「自己統制（続ける力）」「メタ認知（ふりかえる力）」が2
- ・原因帰属：能力
- ・学習スタイル：中間型

○学力・AAIクロス集計より

- ・Ⅱ：学力向上支援群

○知能・学力相関座標より

- ・バランスド・アチーバー

○NRT検査・数学科の分析診断表より

「目的や場に応じて話すこと」は優れている。「書く事柄や組み立てを考えて書く」「表現の効果を確かめて正しく書く」「文学的な文章を読む」「漢字の読み・書き、熟語の構成」が苦手なので、漢字練習をしっかりとやらせ、言葉の知識を増やす必要がある。

5 指導計画と評価計画（別紙）

6 本時の指導

(1) 題目 「故事成語かるた」の中からふさわしい言葉を選び、文章の下書きを書こう

(2) 本時の目標

- ・相手の心情や置かれた状況に合わせ、「故事成語かるた」の中から、自分の思いに応じた適切な故事成語を選び、下書きを書く。

(3) 展開（別紙）

(4) 評価

- ・相手の心情や置かれた状況に合わせ、「故事成語かるた」の中から、自分の思いに応じた適切な故事成語を選び出すことができる。（国語への関心・意欲・態度）
- ・自分の思いと、選択した故事成語を使って、ワークシートに文章の下書きを書くことがで

きる。(書くこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(5) 抽出生徒への主な支援

《生徒A》・判断力や記憶力が高く効率型であるので、友達同士で話し合う場面を作り、リーダーシップを発揮させ、友達に説明し教えるようにさせていきたい。

《生徒B》・判断力や発想力が高く、友人へアドバイスをお互いにもらうような場面を取り入れ、友達に説明し教えるようにさせていきたい。

7 考察

(1) 抽出生徒について

ア 生徒A

○授業の観察等(授業者・参観者より)

カードを使い、それに見合ったものを選ぶことができた。学習プリントに関しては、友人に教えながらすべて書くことができた。普段はとりかかりが遅いが、友人と同じ課題をやることでスムーズにとりかかることができた。2人で机をつけて、積極的に教え合い、最後まで取り組むことができた。今後も友人と協力して行う場面を取り入れていくことが効果的だと思われる。

イ 生徒B

○授業の観察等(授業者・参観者より)

学習プリントに関しては、例を見ながら、すべて書くことができた。例を示すことで、何を書いたらよいか明確になり、文を書くことができたと思われる。ただ、友人へアドバイスをする場面やもらう場面を設定したにも関わらず、一人でよく考えながら書いていた。机間指導をしたときに、文を隠すことがあり、文章に自身がないようである。

内容は、ねらいに沿ったものであった。

(2) 学級全体について

例を示すことで、最後にどんな文章にしたらよいかという見通しが立てられたようだ。また、どのような流れで文章を書いたらよいか分かるようなワークシートを作ったことで、ほとんどの生徒が主旨の通った文章を最後まで書きあげることができた。本時の明確なねらいと流れ、ゴールを示すことはたいへん重要であると感じた。また、作文においては、例があると書ける生徒が増えてくることも分かった。

5 指導計画と評価計画（4時間扱い）

時	主な学習内容	観点	学 習 活 動	評価規準と評価の方法（下線A基準）	教師の支援及び指導上の留意点
1	いろいろな故事成語の由来や意味を調べる。	関 書	<ul style="list-style-type: none"> 辞書や便覧を使い、故事成語を調べる。 「故事成語かるた」をやる。 故事成語の由来や意味を写す。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書や便覧で、積極的に調べようとしている。（観察） ワークシートに意味を書いている。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの故事成語を由来と共に紹介する。
2 本 時	相手にふさわしい「故事成語かるた」を選び、文章の下書きを書く。	伝 書	<ul style="list-style-type: none"> 相手の心情や置かれた状況に合わせ、「故事成語かるた」の中から、適切な故事成語を選ぶ。 「故事成語かるた」の言葉を生かして、文章の下書きを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意味を確認しながら、適切な「故事成語かるた」を選ぶことができる。（ワークシート） 「故事成語かるた」だけでなく、<u>自分の思いも書くことができる。</u>（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力しながら、適切なものを選ぶようにさせる。 文章の構成については、今回は決められたものに従うように指示する。
3	下書きを互いに読み合い、より良いものに推敲し、より効果的に伝わるよう描写などを工夫しながら清書する。	書 書	<ul style="list-style-type: none"> 下書きを互いに読み合い、選んだ故事成語と、意見や心情との関係に注意しながら意見を述べ合う。 推敲した文章を、自分の意見や心情が相手に効果的に伝わるように描写などを工夫しながら清書する。 意見を参考に、下書きをよりよいものに推敲する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ下書きに対して、<u>明確な理由をもとに、考えや意見を述べる</u>ことができる。（観察・付箋紙） 前時にもらった意見や<u>国語の辞書なども参考にしながら、工夫して清書</u>することができる。 <u>選んだ故事成語と、意見や心情との関係に注意しながら意見を述べる</u>ことができる。（観察・付箋紙） 	<ul style="list-style-type: none"> 故事成語と、相手の状況や自分の思いが一致しているかなど、事前に観点をいくつか示しておく。 国語の辞書や便覧などを用意させておき、それらも参考にさせながら工夫して清書させる。 事前に示された観点をもとに、推敲するように指示する。
4	文章を読み合い、感想や意見を交流する。	書 関	<ul style="list-style-type: none"> 書かれた文章を互いに読み合い、故事成語の活用の仕方などについて意見を交流する。 単元の学習全体を振り返り、今後、どのように生かしたいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の文章について、事前に示された観点に従って、感想や意見を述べている。（ワークシート・付箋紙） 授業で学んだことを振り返り、<u>どのように生かしたいかを発表</u>することができる。（発表・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に示された観点をもとに、交流するように指示する。 学習を通じて、どのような言語能力が育成されたかを生徒に意識させるようにする。

(3) 展 開

具 体 目 標	学 習 活 動	時 間	教師の支援及び指導上の留意点 (下線は努力を要する生徒への支援)	評 価	資料・準備
<ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習について、教師の発問に答えながら振り返る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 調べた故事成語の意味をいくつか確認する。 		ワークシート①
<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを確認する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 設定された相手の場面や状況のワークシートをひき、それに対する自分の考えを考える。 		模造紙①
<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じた、「故事成語かるた」を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況に応じた「故事成語かるた」を選んで、手紙の下書きを書こう。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 設定された相手の場面や状況にふさわしい言葉を選ぶように助言する。 「<u>故事成語かるた</u>」については、<u>教室に置いておき、生徒に事前に親しませておく。</u> 友達と相談・協力しながら、それぞれの状況に合った「故事成語かるた」を考えさせる。 「<u>机間指導し、活動の遅れがちな生徒に支援する。</u>」 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況を踏まえ、適切な「故事成語かるた」を選んでいる。(関心・意欲・態度) 	模造紙②
<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じた、「故事成語かるた」を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況や自分の思いを伝えるために、適切な「故事成語かるた」を選ぶ。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 友達が相談・協力しながら、それぞれの状況に合った「故事成語かるた」を考えさせる。 「<u>机間指導し、活動の遅れがちな生徒に支援する。</u>」 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況を踏まえ、適切な「故事成語かるた」を選んでいる。(関心・意欲・態度) 	「故事成語かるた」ワークシート②
<ul style="list-style-type: none"> 選んだ「故事成語かるた」の意味を再確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ「故事成語かるた」の言葉の意味を確かめ、ワークシートに言葉とその意味を書く。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 意味がよく分かっていない生徒にはかるたに書かれている意味を確認させる。 		
<ul style="list-style-type: none"> 相手への文章の下書きを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「故事成語かるた」を用いて相手への文章の下書きを書く。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 「故事成語かるた」の言葉だけでなく、それに応じた自分の考えも書くよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「故事成語かるた」をただ書き写すだけでなく、自分の思いも表現している。(書く・伝国) 	
<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめと次時の学習内容を確認する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 次時の授業では、下書きを読み合い、意見を述べ合った後に、推敲することを伝える。 		

「故事成語」を贈ろう

1年組 番名前)

Aさんの悩み

私は卓球部ですが、今まで一生懸命に練習してきたのに、一回戦で負けてしまいました。どうしたらよいでしょうか。

①そんなAさんに贈る【故事成語】と【その意味】

【故事成語】

【意味】

「故事成語」を贈ろう

1年組 番名前)

(

Bさんの悩み

私はテストのために、コツコツ勉強してきましたが、成績が落ちるいっぽうです。どうしたらよいでしょうか。

①そんなBさんに贈る【故事成語】と【その意味】

【故事成語】

【意味】

「故事成語」を贈ろう

1年組 番名前（

Cさんの悩み

私のクラスは体育祭の大縄がうまくいきません。仲の悪い人たちが、お互いに文句を言い合っているのです、クラスがバラバラです。どうしたらよいでしょうか。

①そんなCさんに贈る【故事成語】と【その意味】

【故事成語】

【意味】

「故事成語」を贈ろう

1年組 番名前

（

Dさんの悩み

私には、勉強も運動も絶対に負けたくない友達があります。その友達とどのようにつきあ
っていったらよいでしょうか。

①そんなDさんに贈る【故事成語】と【その意味】

【故事成語】

【意味】

「故事成語」を贈ろう

1年組 番名前（

Eさんの悩み

私はいつも人の指示を待っているだけで、自分でリーダーシップをとるのが苦手です。
どうしたらよいでしょうか。

①そんなEさんに贈る【故事成語】と【その意味】

【故事成語】

【意味】

Fさんの悩み

私は、すぐあきらめてしまう性格で、いろいろなことがなかなか長続きしません。とくに、結果が出ないとすぐにあきらめてしまい、部活でもできなかったり、負けてしまったりすると、すぐあきらめてしまいます。どうしたらよいでしょうか。

そんなFさんへの手紙

Fさんへ

あなたは、「すぐあきらめてしまう性格で、いろいろなことがなかなか長続きしないですね。とくに、結果がでないとすぐにあきらめてしまう。」という状況で悩んでいるんですね。

私にも「毎日卓球で素振りを千回やっても、なかなか勝てずに一週間で素振りをやめてしまった。」という経験がありました。

私があなたに贈りたいのは、「大器晩成」という故事成語です。

この言葉の意味は、「大人物は年をとってから大成する。」というものです。

【「」からは自分の思いを書いてみよう】

大きな結果を出したいと思うなら、あせらないでじっくりと長い年月をかけてみてください。そう簡単に、結果を追い求めるのではなく、長い目で見て、一日をじっくりと取り組むべきかと思います。千回を一週間ではなく、五百回を三年間続けてみてください。一度にたくさん詰めこみ過ぎず、とにかく長い年月をかけてじっくりと取り組むことが大切だと思います。

共感	自分の経験	故事成語	故事の意味	自分の思い
<p>Fさんへ</p> <p>あなたは、「すぐあきらめてしまう性格で、いろいろなことがなかなか長続きしないですね。とくに、結果がでないとすぐにあきらめてしまう。」という状況で悩んでいるんですね。</p>	<p>私にも「毎日卓球で素振りを千回やっても、なかなか勝てずに一週間で素振りをやめてしまった。」という経験がありました。</p>	<p>私があなたに贈りたいのは、「大器晩成」という故事成語です。</p>	<p>この言葉の意味は、「大人物は年をとってから大成する。」というものです。</p>	<p>【「」からは自分の思いを書いてみよう】</p> <p>大きな結果を出したいと思うなら、あせらないでじっくりと長い年月をかけてみてください。そう簡単に、結果を追い求めるのではなく、長い目で見て、一日をじっくりと取り組むべきかと思います。千回を一週間ではなく、五百回を三年間続けてみてください。一度にたくさん詰めこみ過ぎず、とにかく長い年月をかけてじっくりと取り組むことが大切だと思います。</p>

中学1年社会科の「資料の読み取り」における実践

1 単元名 東アジア世界とのかかわりと社会の変動

2 単元について

(1) 単元観

第3章は2つの節から構成されている。1節では武士勢力が、それまでの貴族勢力に取ってかわる背景から、東国を中心に本格的な武士政権を樹立し、展開させていった過程を理解することをねらいとしている。

2節では、モンゴルの襲来から、室町幕府の成立・展開、南北朝の動乱、応仁の乱、戦国時代を主に取りあげている。

鎌倉政権が滅び、室町政権が、武士の政権としてはじめて全国政権として展開していくが、一方ではこの時代は、大きく見れば波乱・争乱の時代であった。この背後にある経済の変動・発展、民衆の成長、また、東アジアを中心とする海外勢力の影響、交流に目を向けるようにしたい。それらの理解を深める資料を読み取る際、資料の読み取りが苦手な生徒に対する工夫を取り入れた指導を行いたい。

(2) 学級の実態

1年生らしい、子どもらしさのある明るい学級である。定期テストにおいても、学級の平均点が7クラス中トップであったが決して理解力の高い生徒が多いわけではない。学級の雰囲気や、集中して話を聞くなどの基本的な生活習慣や学習習慣が身につけている生徒が多いことがテストの結果にもつながっているようすがみられる。授業においては、反応もよく、活発に発表もできる生徒が多い。特に、話し合い活動を行う時間を設けなくても、他の生徒の発表をよく聞いて自分の意見を述べるような雰囲気もできている。

一方で特別な支援が必要な生徒も複数いる。それらの生徒に対して、周囲のクラスメイトが生活面、学習面において声掛けをしてくれている。授業の中でもグループ活動や話し合い活動を通して、集中力の持続しにくい生徒や配慮が必要な生徒を、授業に意欲的に取り組もうとするクラスの雰囲気になじませることで、理解の深まりにつなげたい。

3 研究主題との関連（テストバッテリーの結果から）

(1) クラス全体の傾向

○知能検査より

- ・学習ペースは学習目標を短時間でクリアできる（Hタイプ）生徒がやや少なく、時間をかけて基礎的・基本的な学習に取り組ませたい（Lタイプ）生徒が3割強と全国並みの分布となっている。
- ・学習適性は、バランスタイプが43%と全国平均（68%）に比べ25ポイント低く、言葉を媒介にした学習が得意な生徒（Aタイプ＝抽象言語型）が34%と全国平均（16%）の倍以上、視聴覚教材を使う学習や動きを伴った学習が得意な生徒（Bタイプ＝感覚運動型）も23%と全国平均（16%）より多く、Aタイプ・Bタイプのどちらかに偏った生徒が多い。特に、女子に感覚運動型が多いという特徴が見られた。（女子6名・男子2名）そこで、グラフや絵の資料を得意とする生徒の特徴を生かした授業を展開したい。

- ・課題解決スタイルの「速さ」においては、目立った特徴はなくバランスがとれているが、「速い」がやや多い傾向にある。しかし、「正確さ」においては、「普通」が少なく、「正確」と「不正確」に二極化している実態がある。生徒同士の話し合い活動を取り入れるなどして、じっくりと考える時間を作りたい。

○学力A A Iクロス集計より

- ・Ⅰ：学力・学習適応性バランス群の割合は平均並みだが、Ⅱ：学力向上支援群、Ⅳ：個別支援群の割合が多い。そこで、授業に沿った資料の読み取りをしやすくするためのワークシートを用意して基礎的・基本的な内容の定着を図りたい。

○NRT検査・社会科の分析診断表より

- ・本学級の社会科の学力は『地理的分野』『公民的分野』においては全国正答率と同程度であるが、『歴史的分野』が特に低くなっている（学年平均でも同じ傾向が見られる）。観点別集計においては、社会的な思考・判断・表現が最も低い結果となっている。
- ・小問分析においては、本学級の女子の多くが文章化された問題を苦手としていることがみてとれる。そこで、通常は文章化された資料で理解を深めさせる内容の指導を、視聴覚機器を使って理解を深めるような資料を用意して理解の一助としたい。

学力・A A Iクロス集計表

◇…男子 ◆…女子

↑ 高い 学力	5	Ⅲ：学習適応性支援群 学級 2.9% 全国 17.6%		Ⅰ：学力・学習適応性バランス群 学級 68.6% 全国 66.0%		
	4			◇◇◇◆	◆	
	3		◇	◇◇◆◆	◇◇◇◇◆◆	
	2	Ⅳ：個別支援群 学級 17.1% 全国 7.3%	◇◆	Ⅱ：学力向上支援群 学級 11.4% ◆◆全国 9.1% A B		
	1	◇	◇◆◆			
		1	2	3	4	5

A A I 高い→

(2) 抽出生徒の実態

《生徒A》

ア 日常の観察や調査から

明るく元気があり、運動部でも熱心に活動している。授業中も社会だけでなく、どの教科にも熱心に取り組む態度が見られ、挙手も多い。ノートもきれいに書くなど、学習に対する意識は高い。課題解決スタイルは「性急型」で落ち着いて取り組めば、理解する力はあると

考えられる。授業ではBタイプの特性を生かして理解が深められるようにしたい。

イ テストバッテリーの結果から

○知能検査より

・学習ペース：M ・学習適性：感覚運動型 ・課題解決スタイル：性急型

○AAIより

指導や援助が必要な学習要因 「自己効力感（がんばる力）：3」「学習の意欲：3」

○学力・AAIクロス集計より

・Ⅱ：学力向上支援群

○知能・学力相関座標より

・アンダーアチーパー

○NRT検査・社会科の分析診断表より

すべての教科でやや平均以下の理解度であった。社会科では、地理・歴史・公民すべての領域で課題があるといえる。学習意欲の高さを生かしながら、基礎・基本を定着させる学習をとりいれた指導を行いたい。

《生徒B》

ア 日常の観察や調査から

たいへんまじめな性格で、何事にも手を抜かず、一生懸命取り組むことができる。授業中もよく話を聞いており、自信があるときは挙手することもある。AAIの結果も高く学習意欲も見られる。

イ テストバッテリーの結果から

○知能検査より

・学習ペース：L ・学習適性：感覚運動型 課題解決スタイル：準性急型

○AAIより

指導や援助が必要な学習要因 「テストの受け方：3」「家庭の学習環境：3」

○学力・AAIクロス集計より

・Ⅱ：学力向上支援群

○知能・学力相関座標より

・バランスドアチーパー

○NRT検査・社会科の分析診断表より

国語と数学は平均的であるが、社会と理科の理解が低くなっている。社会科では、地理分野、歴史分野を特に苦手としている。得点の開きから、理科・社会への苦手意識もみられるが、学習意欲の高さを生かし、興味と自信を持たせていくような指導を行いたい。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 指導目標

- ・鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱、室町幕府の成立、応仁の乱と戦国大名の登場を通して、武家政治の展開を理解させる。
- ・諸産業が発達し、都市や農村に自治的なしくみが生まれるなど、民衆が成長していったことを理解させる。
- ・東アジア世界とのかかわりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解させ、そのかかわりが中世の日本に及ぼした影響を考えさせる。

- ・室町幕府の新しい文化の特色を理解させ、現在との結びつきに気付かせる。

5 単元の指導計画

時	主な学習内容	学習目標	評価規準
1	1 モンゴルの襲来と日本 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸での動き、モンゴルの襲来と日本の対応について理解する。 ・鎌倉幕府が滅亡した理由をモンゴル襲来の影響や変化から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳政令の資料の意味を読み取ることができる。(おおむね満足できる状況) ・徳政令の意味を読み取り、幕府や御家人に与えた影響を考えることができる。(十分満足できる状況)
2	2 南北朝の動乱と室町幕府	<ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。 ・室町幕府と鎌倉幕府のしくみを比較して、その特徴をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を考察している。(思考・判断・表現) ・新たな権限を持った守護が守護大名となり、後の政治に影響を及ぼすことに気付いている。(知識・理解)
3	3 東アジアとの交流	<ul style="list-style-type: none"> ・東シナ海をはさんだ中国・日本・朝鮮の結びつきや、蝦夷地の動きをとらえる。 ・琉球と蝦夷地の人々の交流や結びつきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日明貿易、琉球の国際的役割、蝦夷地の動きなどを地図にまとめている。(技能) ・琉球が中継貿易に活躍し、中国・朝鮮・東南アジアを結びつけていたことに気付いている。(知識・理解)
4	4 産業の発達と民衆の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や商業・手工業などが発達し、民衆の力が伸びてきたことを理解する。 ・畿内を中心に、自治的な組織が生まれたことを土一揆などの様子から理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や商業・手工業の発達が当時の社会に及ぼした影響について考察している。(思考・判断・表現) ・村のおきてや一揆の碑文などの資料から、民衆の成長の様子などを読み取っている。(技能)
5	5 応仁の乱と戦国大名	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱の原因や経過、その後の社会に及ぼした影響について理解する。 ・戦国大名の登場とその支配について、応仁の乱や下剋上の風潮から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む地域の戦国大名に関心を持ち、意欲的に学習している。(関心・意欲・態度) ・戦国大名の分布図から、下剋上の風潮が全国に広がったことを読み取っている。(技能)
6	6 室町文化とその広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な事例を取り上げて、室町幕府の文化の特徴を理解する。 ・この時代に生まれた文化で現代に受け継がれているもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化に関心を持ち、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものに気付いている。(関心・意欲・態度) ・武家文化と公家文化の融合など、室

		に関心を持つ。	町時代の文化の特徴をとらえている。(知識・理解)
7	章のまとめ		

6 本時の指導

(1) 題材名 「モンゴルの襲来と日本」

(2) ねらい

- ・鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考えることができる。【思考・判断・表現】
- ・徳政令が幕府や社会に与えた影響を、資料から読み取ることができる。【資料活用の技能】

(3) 評価規準

- ・徳政令の資料の意味を読み取ることができる。(おおむね満足できる状況)
- ・徳政令の意味を読み取り、幕府や御家人に与えた影響を考えることができる。(十分満足できる状況)

(4) 抽出生徒への主な支援

《生徒A・Bほか全生徒に対して》

- ・徳政令が幕府や社会に与えた影響を理解するため、教科書に載っている「永仁の徳政令」の資料に加えて、徳政令の影響を視覚的に理解するための資料を提示する。

(5) 展 開 … (別紙)

7 考 察

(1) 抽出生徒について

ア 生徒A

○授業の観察等(授業者・参観者より)

- ・Bタイプの生徒であるため、視聴覚教材を多く活用した授業展開であった。大型テレビの画面に映し出された資料に興味・関心を示し、集中して授業に取り組んでいた。
- ・教科書・資料集等を活用し、自力でワークシートの穴埋めをすることができた。
- ・近くの生徒と自由な班を組み、積極的に他の生徒と意見交換をすることもできた。

イ 生徒B

○授業の観察等(授業者・参観者より)

- ・理解は遅いが、作業は丁寧に取り組んでいた。
- ・複数の資料(ワークシート、教科書、資料集)を活用しようと努力していた。
- ・視聴覚教材に、興味を示していた。

(2) 学級全体について

女子にBタイプの生徒が多いことから、視聴覚教材を活用した授業が展開されていたが、その有効性は、生徒達の表情や態度から十分に感じることができた。

(5) 展 開

◎は抽出生徒への支援 ★は人権教育の視点

学 習 活 動	時間 (形態)	活 動 へ の 支 援	評価の観点及び評価の基準 (方法)
1. 本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">モンゴルの襲来はどのようなもので、日本にどのような影響をあたえたのだろうか</div>	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・前節までのふりかえりをして北条氏の執権政治をふりかえる。 ・資料を有効的に活用して調べるように促す。 	
2. モンゴル帝国の拡大について調べる。	10分 個人	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の記述だけでなく、地図を見て、視覚的に理解させる。 	
3. 元軍の二度の襲来の経過を理解する。	10分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で学習した内容もふりかえらせる。 ・元軍が日本に襲来した理由とその経緯、戦い方の違い、襲来が失敗した原因を考えさせる。 	
4. 御家人の生活が苦しくなったことを理解する。	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・恩賞が不十分であったこと。分割相続で領地が小さくなっていったことに気付かせる。 	
5. 徳政令の内容と、幕府や御家人に与えた影響を考える。	15分 グループ ↓ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ◎A・Bほかの生徒に対しても徳政令が出された経緯や社会に与えた影響の理解を深めるためのプリントを準備する。 ・徳政令によって社会が混乱し、鎌倉幕府の滅亡につながっていったことも考えさせる。 ★生徒同士の意見や発表をよく聞かせる。 	徳政令の資料の意味を読み取ることができる。(おおむね満足できる状況) 徳政令の意味を読み取り、幕府や御家人に与えた影響を考えることができる。 (十分満足できる状況)
6. 学習のまとめ	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックカードに本時の感想を記入させ、自分の考えをもたせる。 	

資料を使って徳政令を理解しよう！

資料1 ^{たけざきすえなが}モンゴル軍に立ち向かう竹崎季長



1年 組 氏名

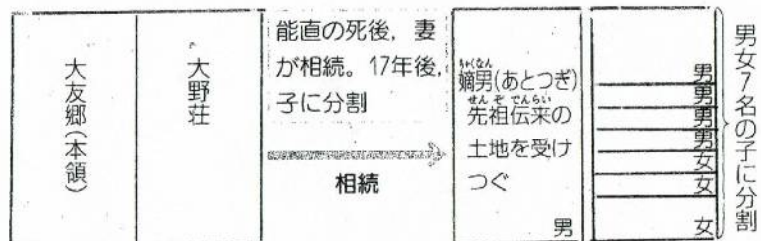
資料2 ^{せきるい}石塁で防備を固めて迎え撃った二度目の^{げんこう}元寇



石塁 (蒙古襲来絵詞)

資料3 領地の分割相続

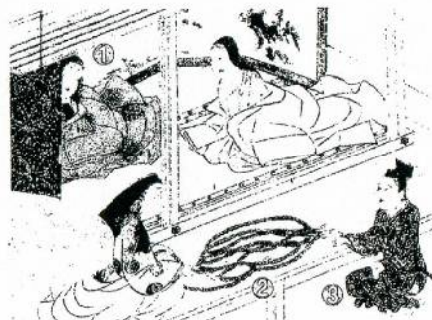
^{おともしなお}大友能直の領地



御家人は、領地を分割して受けついだため、しだいに領地はせまくなり、経済力が弱くなっていきました。

資料4 御家人の苦しみ

- ①御家人に ②お金をかす
- ③高利貸し

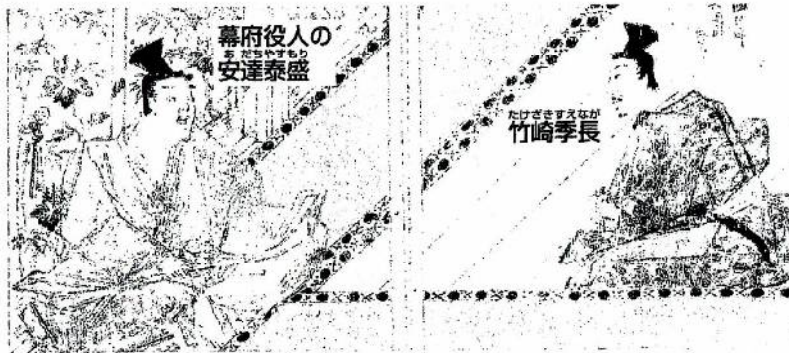


一部の武士は借金をして領地を失い生活が苦しくなっていました。

資料5 ???を要求する^{たけざきすえなが}竹崎季長

何を要求しているのだろう？

私の一番乗りの手柄を認めてください。



☆まとめよう

徳政令とはどういうものですか。

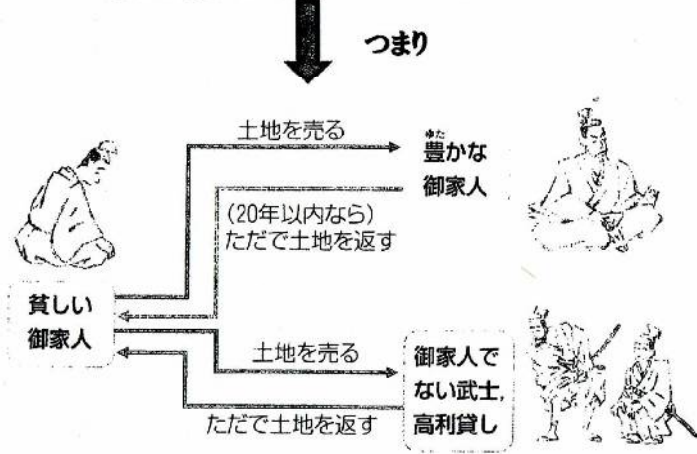
徳政令の結果、世の中や幕府はどうなっていったでしょうか。

資料6 ^{えいにん とくせいらい}永仁の徳政令 1297(永仁5)年

御成敗式目を守り、地頭や御家人が買った土地のうち、
 売買から20年過ぎた土地については、^{ばいばい}売り主は取り返してはならない。
 御家人以外や一般人(高利貸し)が買った土地については、^{けい}経過した年月に関係なく売り主は取り返すことができる。
 領地の^{りやうち}買入や^{しちいれ}売買は、御家人たちの困窮の原因である。
 今後はいっさい禁止する。
(東寺百合文書)

→
 そこで幕府は…

誰を助けようとしたのだろう



土地を返した御家人や高利貸しはどう思っただろう。

中学校3年数学科の『関数』における実践

1 単元名 関数 $y = ax^2$

2 単元について

(1) 単元の系統性 (略)

(2) 学級の実態

ア 日常の観察

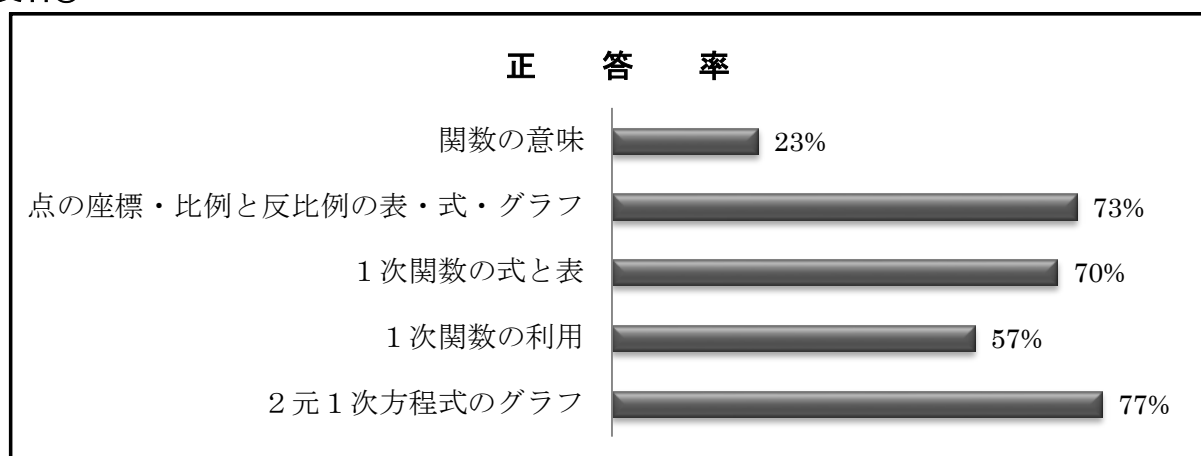
本単元では、第1、2学年において具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して関数関係を見だし、表現する能力を高めてきた。第3学年では、具体的な事象における2つの数量の変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ を考察する。その際、表、式、グラフを相互に関連付けながら、変化の割合やグラフの特徴など、関数への理解を深め、関数関係を見だし表現し考察する能力を一層伸ばしていくことになる。

表やグラフについての知識や技能が身に付いている生徒は多いが、文章で示されている変数の関係を式で表すことや、表、式、グラフの関連性についての理解が深まっていないようである。全体的に個別の学習を好む傾向にあるが、授業にペアやグループによる伝え合い学習を取り入れることで、周囲と考えを表現し合うことに徐々に慣れてきている。

イ レディネステストから

レディネステストの結果から、関数を学習するために必要な既習事項(座標の取り方や読み方、比例、反比例、1次関数の表、式、グラフの読み方やかき方等)は6～8割の生徒がだいたい理解できている。しかし、関数の意味理解が不十分な生徒が多いので、丁寧に指導する必要がある。

資料①



3 研究主題との関連 (テストバッテリーの結果から)

(1) クラス全体の傾向

○知能検査より

- ・学習ペースは、約8割の生徒が標準以上のペースで学習を進めることができる。
- ・学習適性は、約7割の生徒がバランスタイプであるが、約3割の生徒がAタイプである。Aタイプの生徒は、言語的な能力を生かした指導を行うことが効果的である。そこで、ノート指導においては、具体的な操作を中心とした活動において、図に言葉を添えることで図の意味をわかりやすくしたい。また、発表においては、問題の解き方を説明する友達の発言をそのまま復唱することで理解を深めたい。
- ・課題解決スタイルは、やや慎重な傾向にある。そのため、発問のタイミングや机間指導の順番など個に応じた指導に努めたい。

○学力・AAIクロス集計より

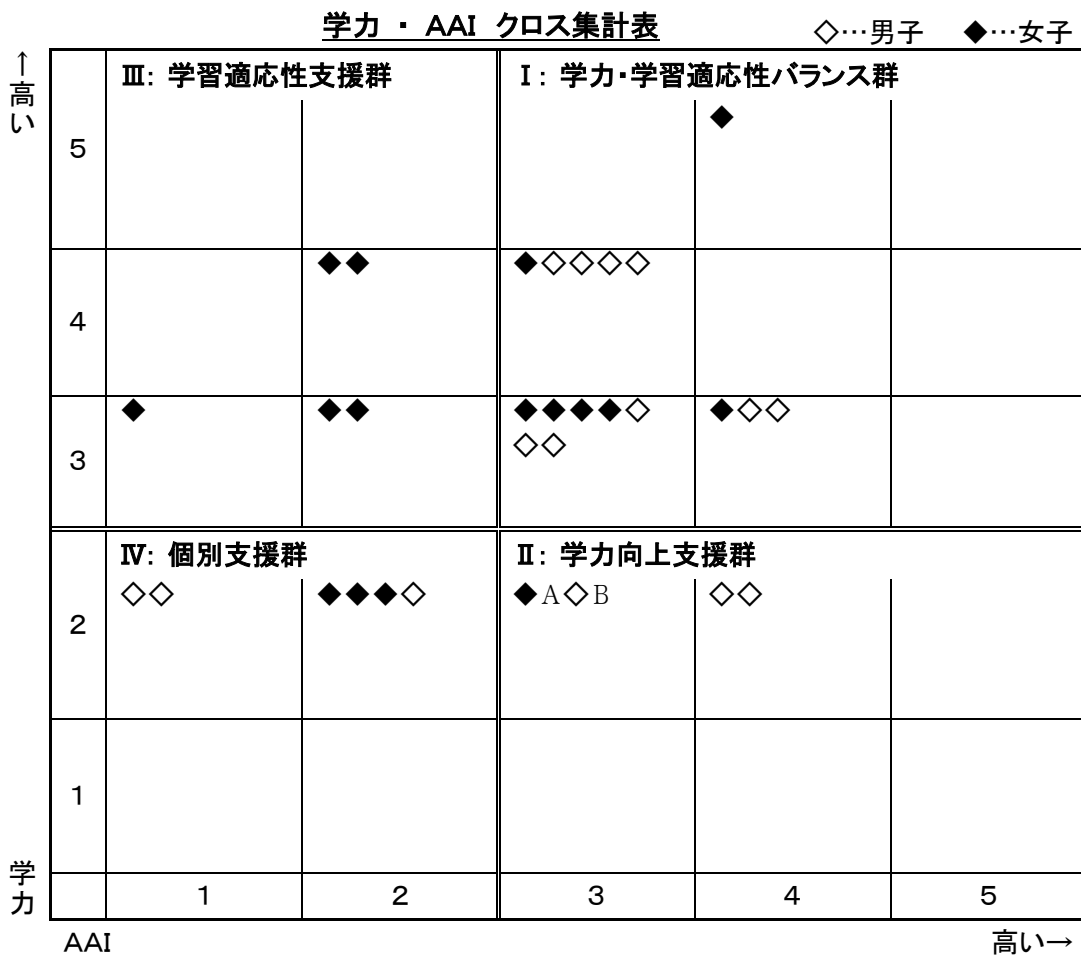
・ I：学力・学習適応バランス群が多く、全体としてバランスがとれている。II：学力向上支援群、IV：個別支援群の生徒への対策としては、教材・教具の与え方、グループ編成、机間指導、発問の工夫等、具体的な手だてや活躍の場を設定したい。

○NRT検査・数学科の分析診断表より

本学級の数学科における領域ごとの学力を全国正答率と比較すると、『図形領域』、『関数領域』については優れているが、『数と式』については全国正答率と同程度である。

小問分析表より、「1次方程式の解の意味」や「1次方程式を解くこと」の正答率が低いことから1次方程式の意味理解や計算の方法について指導を繰り返し行うとともに、ドリル的な学習を十分に取り入れる必要である。

資料②



(2) 抽出生徒の実態

《生徒A》

ア 日常の観察や調査等から

生活面での時間の使い方や、計画の立て方などを指導する必要がある。また、勉強に対して、問題が解けると楽しいと感じていることから、授業場面では、問題を自分で解かせ、達成感を味わわせるような対応をしていきたい。

イ テストバッテリーの結果から

○知能検査より

- ・機能からみた特徴：評価
- ・学習ペース：M
- ・学習適性：バランスタイプ
- ・課題解決スタイル：迅速型

○AAIより

- ・学習の要因：おおむね3～4、「家庭の学習環境」と「自己統制（つづける力）」が2

- ・原因帰属：努力
- ・学習スタイル：中間型
- 学力・AAIクロス集計より
 - ・II：学力向上支援群
- 知能・学力相関座標より
 - ・アンダー・アチーバー
- NRT検査・数学科の分析診断表より

生徒Aの数学科における領域ごとの学力を全国正答率と比較すると、『図形領域』については優れているが、『数と式』、『関数領域』については課題がある。

小問分析表より、「正負の数や指数の四則計算、等式の性質、方程式の解の意味」や「反比例の意味理解」の誤答が多いので、計算の方法と関数の意味理解についての指導を繰り返し行うとともに、ドリル的な学習を十分に取り入れる必要がある。

《生徒B》

ア 日常の観察や調査等から

分からない所があると、そこから先に進めなかったり、じっくりと腰を据えて学習できていなかったりすることがみられるので、授業中の机間指導において、声かけをしながら本人の理解の程度を確認する必要がある。

また、学習への姿勢として、早とちりや直感的な理解の仕方による知識理解の不十分さが考えられる。数学の学習は、複雑なものを時間をかけて考える問題が増えていくため、授業でもそのことに触れつつ、家庭学習の方法等、指導していく必要がある。

イ テストバッテリーの結果から

- 知能検査より
 - ・機能からみた特徴：評価
 - ・学習ペース：L
 - ・学習適性：バランスタイプ
 - ・課題解決スタイル：性急型
- AAIより
 - ・学習の要因：おおむね3～4、「自己統制（つづける力）」だけが2
 - ・原因帰属：努力
 - ・学習スタイル：中間型
 - ・授業の宿題や、疑問点の解決も思うように行えていない傾向にある。
- 学力・AAIクロス集計より
 - ・II：学力向上支援群
- 知能・学力相関座標より
 - ・バランスド・アチーバー
- NRT検査・数学科の分析診断表より

生徒Bの数学科における領域ごとの学力を全国正答率と比較すると、すべての領域において課題がある。

小問分析表より、「文字式の表し方、文字式の表現、1次方程式を解くこと」、「線対称・点対称な図形の意味理解、基本的な作図の手順、立体と展開図」や「比例・反比例の意味理解、 y を x の式で表す、変域、グラフ」の誤答が多いので、文字式、1次方程式、平面図形・空間図形、関数の意味理解についての指導を繰り返し行うとともに、ドリル的な学習を十分に取り入れる必要がある。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 目 標

- ・事象の中には関数 $y = ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ることができる。(関心・意欲・態度)
- ・関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。(見方や考え方)
- ・関数 $y = ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。(技能)
- ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解することができる。(知識・理解)

(2) 評 価 規 準 (15 時間扱い)

時	学習活動	指導上の留意点	評価の観点				評価基準	
			関	思	技	知	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
1	比例でも1次関数でもない関数について調べる。	y が x の2乗に比例する関数があることに気づかせる。	○			◎	$y = ax^2$ に関心を持ち、 $y = ax^2$ としてとらえられる2つの数量を見いだせ、2乗に比例することの意味を理解している。	$y = ax^2$ の値の変化や対応の様子が既知の関数とは異なることに関心を持ち、それらを積極的に調べ、 $y = ax^2$ の意味を、既習の比例を関連づけて理解している。
2	y が x の2乗に比例する関数を式で表すことができる。	$y = ax^2$ の式に与えられた数量を代入し、 a の値を求めさせる。			◎		$y = ax^2$ の関係を式で表し、求めることができる。	$y = ax^2$ の関係を表す式に数を代入し、対応する値を求めることができる。
3	$y = x^2$ のグラフについて調べる。	$y = x^2$ の式から表を完成させ、座標を一つ一つ確認させる。	○		◎		$y = x^2$ のグラフをかきことができる。	$y = x^2$ のグラフをかきことができ、性質までまとめることができる。
4	$y = ax^2$ のグラフについて調べる。	$y = ax^2$ の式から表をつくりグラフに表し、特徴を調べさせる。	○		◎		$y = ax^2$ のグラフをかきことができる。	$y = ax^2$ のグラフを正確にかきことができる。
5	$y = ax^2$ のグラフの特徴をまとめる。	$y = ax^2$ のグラフは a の値によってかわることをまとめさせる。	○		○		$y = ax^2$ のグラフの特徴をまとめることができる。	$y = ax^2$ のグラフの特徴を積極的にまとめることができる。
6	変域があるグラフについて調べる。	x と y の変域について、グラフを用いて求めさせる。			◎	○	x の変域が与えられているときに、 y の変域を求めることができる。	グラフの特徴から、 x の変域が与えられているときに、 y の変域を求めることができる。
7	平均の速さについて調べる。	平均の速さは変化の割合の求め方で求まることを確認させる。			◎	○	平均の速さは変化の割合の求め方で求まることを確認できる。	平均の速さは変化の割合の求め方で求まることに自ら気づく。
8	変化の割合について考える。	変化の割合が一定でないことを確認させる。			◎	○	変化の割合が一定でないことを確認できる。	変化の割合が一定でないことに自ら気づく。
9	$y = ax^2$ を活用して、道のり・速さ・時間の問題について考える。	分かっている数量の関係を表、式、グラフに対応させ確認し、変化や様子を調べさせる。		◎	○		$y = ax^2$ を活用して、道のり・速さ・時間の問題について考え、求めることができる。	$y = ax^2$ を自ら活用して、道のり・速さ・時間の問題について考え、求めることができる。
10	$y = ax^2$ を活用して、図形の移動の問題について考える。	分かっている数量の関係を表、式、グラフに対応させ確認し、変化や様子を調べさせる。		◎	○		$y = ax^2$ を活用して、図形の移動の問題について考え、求めることができる。	$y = ax^2$ を自ら活用して、図形の移動の問題について考え、求めることができる。
11 12	いろいろな関数について考える。	ともなって変わる2つの数量関係を、既習の関数と比較し、その特徴を考えさせる。		◎	○		ともなって変わる2つの数量関係を、既習の関数と比較し、その特徴を理解することができる。	ともなって変わる2つの数量関係を、既習の関数と比較し、その特徴を考えることができる。
13 14	演習問題に取り組む。 ○基本のたしかめ ○学習のまとめ ○章の問題	基本的な内容を確認させる。			○	○	標準的な問題が解ける。	発展的な問題が解ける。
15 (本時)	自動車の停止距離について考える。 「車は急には止まらない？」	自動車の停止距離について考えさせる。	○	◎			自動車の停止距離について考えることができる。	自動車の停止距離について表、式、グラフを用いて考えることができる。

5 単元の指導計画（15時間扱い）

節	小 節	指 導 内 容	単 元	抽 出 生 徒 へ の 支 援
関 数 $y = ax^2$	1 関数 $y = ax^2$	<ul style="list-style-type: none"> 比例でも1次関数でもない関数 y が x の2乗に比例する関数 2乗に比例する関数を式で表すこと 	2	A→文章の読み取りを大事にさせたい。また、自分の考え方を班員に説明する場をつくるようにしたい。 B→じっくり考えさせ、なぜなのか、どうしてそうなるのか等を問いかけてい。
	2 関数 $y = ax^2$ のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = x^2$ のグラフ 関数 $y = ax^2$ のグラフ 関数 $y = ax^2$ のグラフの特徴 関数 $y = ax^2$ の値の変化 変域が限られたグラフ 	4	A→グラフをかく場面では、じっくり取り組ませ、達成感をもたせたい。 B→グラフをかく場面では、丁寧に取り組ませたい。
	3 関数 $y = ax^2$ の変化の割合	<ul style="list-style-type: none"> 平均の速さと変化の割合 関数 $y = ax^2$ の変化の割合 関数 $y = ax^2$ の特徴のまとめ 	2	A→変化の割合を求める場面では、取り組みの様子を観察し、発表の場面をもうけたい。 B→伝え合いの場面では、自分と友人の考えをすり合わせることで、実感をもって理解させたい。
	4 関数 $y = ax^2$ の活用	<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ を活用して、問題を解決すること 	2	A→つまずきやすい問題はヒントを出し、それに沿って取り組めるようにしたい。 B→文章の内容理解を十分にさせた上で、図、式、グラフの関連を丁寧に考えさせたい。
	5 いろいろな事象と関数	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな関数を活用して、問題を解決すること 	2	A→日常生活の事象と関連した内容なので、実感をもって取り組ませたい。 B→グラフの読み取りなどは、丁寧に取り組ませたい。
	基本のたしかめ		1	
学習のまとめ			1	
章の問題			1	A→できる問題から取り組ませる。複雑な問題は、考え方のヒントを与え、支援したい。 B→既習事項を確認させるとともに、正確に処理できたり、どのような場面で活用できるのかを理解させたい。
チャレンジコーナー 自動車の停止距離について考える。 「車は急には止まれない？」		<ul style="list-style-type: none"> グラフの特徴から空走距離、制動距離の特徴をつかみ、時速100kmの時の停止距離を求める。 	(本時) 1	A→既習事項を確認する際、ヒントカードを配付することで、既習事項を想起させる学習場面を設定したい。 B→課題解決の際、ヒントカードを準備し、その流れに従って解答が導き出せるよう支援していきたい。

6 本時の指導

(1) 題材名 「車は急には止まれない？」

(2) ねらい

- 具体的な事象を調べることを通して、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。
(見方や考え方)
- 関数関係を見だすためにグラフを活用することができる。(技能)

(3) 評価規準

- 自動車の停止距離について考えることができる。(おおむね満足できる状況)
- 自動車の停止距離について、表、式、グラフを用いて考えることができる。(十分満足できる状況)

(4) 抽出生徒への主な支援

《生徒A》・機能からみた知能の特徴(評価)→既習事項を確認する際、ヒントカードを配付することで、既習事項を想起させる学習場面を設定する。

《生徒 B》・機能からみた知能の特徴（評価）→既習事項を確認する際、ヒントカードを配付し、個別の指導を行う。

（5）展 開…別 紙

7 考 察

（1）抽出生徒について

ア 生徒 A

授業の観察等（授業者・参観者より）

- ・学習プリント…本人一人の力では解決できない問題でも、教師からのヒントカードや隣人や班員の助けもあり、生き生きと笑顔で積極的に学習が進めることができたようである。
- ・グループ活動…友人の説明を一生懸命理解しようと努力していた。
- ・問 い か け…教師からヒントカードをもらったときの取組が良好だった。教師がまめに関わりを持つことが必要であると感じた。

イ 生徒 B

授業の観察等（授業者・参観者より）

- ・学習プリント…グラフをかき始めるまで時間がかかったが、教師からヒントカードを手渡しされてから、自分でやろうという意欲が見られた。
- ・グループ活動…常に話し合いの中心となり、苦手ながらも周りに声を掛けながら生き生きと楽しく活動していた。
- ・問 い か け…友人から学び取ろうとする態度が強く感じられたので、教師はヒントを小出しにし、本人が納得するまで考えさせると定着するのではないかと思った。

（2）学級全体について

落ち着いた雰囲気の中で、全員が教師の説明を集中して聞き、課題に意欲的に取り組んでいた。単元、特に本時の指導を通して次のようなことを実感として捉えることができた。

【成果】

- ① 教材の工夫や与え方で個々のもっている力が生かされ、意欲的に取り組む姿がみられる。
- ② 学習プリントの活用、適切な学習形態の場（ペア、グループ）で、個々のもっている力を充分に発揮でき、意欲の喚起につながる。
- ③ ヒントカードをとり入れることで、学習に遅れがちな生徒が生き生きと活動できる。
- ④ 発問の工夫で、機能からみた知能や創造的思考の面での力をもった生徒を活躍させることができ、自信をもたせることができる。
- ⑤ 机間指導を意図的にこまめにすることで、個に対応でき自信とやる気をもたせることができる。
- ⑥ 生徒に説明をさせることが良かった。本当に理解していないと説明できないので、生徒も一生懸命説明し、聞く態度も養われる。また、他に説明することで、本人の理解度も上がるのが再確認できる。

【課題】

- ・1グループ5～6人では、各自の考えを伝え合うのに時間がかかり、また、同じ話を何度も聞くことで飽きてしまうなど、デメリットがある。やはり3～4人が最適だと思う。

(5)展開

◎は抽出生徒への支援 ★は人権教育の視点

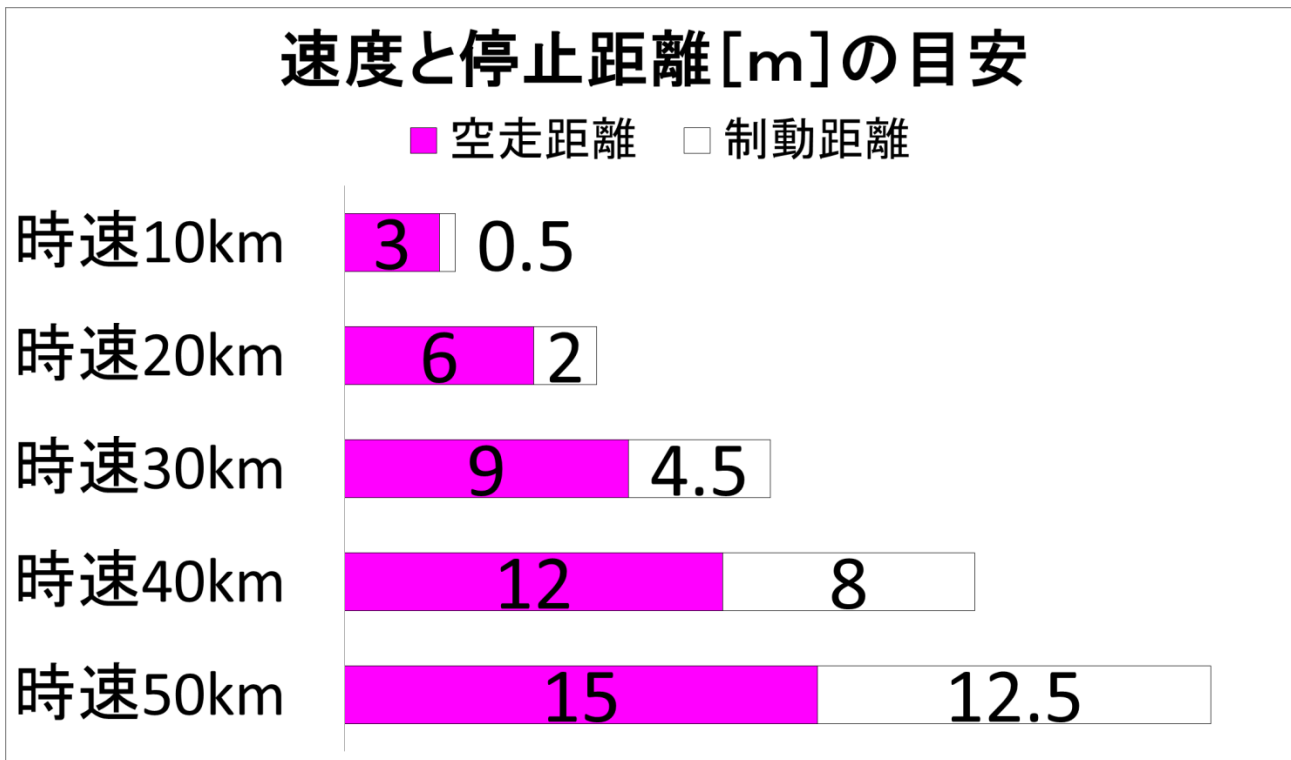
学習の流れ	学習活動	時間 (形態)	活動への支援	評価の観点及び評価の基準 (方法)
見通す	1. 本時の学習内容を知る。 車は急に止まれない理由を考えよう。 2. 「空走距離」、「制動距離」、「停止距離」について確認する。 3. 停止距離についての予想をして発表する。	10 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> •ねらいをもって本時の課題に取り組む気持ちを持たせるために、止まるための行動を、イラストを見ながら確認する •ワークシート①を配付する。 •「空走距離」、「制動距離」、「停止距離」について確認できたらワークシート①を配付する。 	
考える	4. 関数の表し方は何が合ったかを確認する。	3 (ペア)	<ul style="list-style-type: none"> •周囲の生徒同士で求め方を伝え合うことで確認する。 ◎Aに対しては、既習事項を確認する際、『ヒントカード』を配付することで、既習事項を想起させる学習場面を設定したい。 	
	5. 【問題】 時速 100km の自動車の停止距離を関数を使って求めよう。 与えられたグラフから「空走距離」、「制動距離」がそれぞれどのように変化しているか求め、時速 100km の停止距離を考える。	10 (個人)	<ul style="list-style-type: none"> •ワークシート②を配付し、空走距離、制動距離がどのような関数になっているか考えさせる。 ★机間指導を通して、生徒の考えや学習状況を把握する。 ◎Bに対しては、課題解決の際、『独自のワークシート』を準備し、その流れに従って解答が導き出せるよう支援していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> •自動車の停止距離について考えることができる。(おおむね満足できる状況) •自動車の停止距離について、表、式、グラフを用いて考えることができる。(十分満足できる状況)
深める	6. 考えたことについて、周囲の生徒同士で伝え合う。	12 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> •任意小集団で伝え合うことで、互いの意見を認め合い、クラス全体に伝える準備をする。 ★机間指導を通して、話し合いの様子から人間関係を把握する。 	
	7. 代表生徒が全体で求め方を伝える。	10 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> •発表を聴き、それぞれの考え方を認める。また、クラスメイトと自分の考え方を比べることで、新たな発見や気づきにつなげる。 •黒板で生徒が拡大したワークシートを利用し、自分の考えを発表する。 	
振り返る	8 本時の学習の振り返り 授業の感想をかき、本時を振り返る。	5 (個人)	<ul style="list-style-type: none"> •授業の感想をかかせ、意見を交換させる。 •日常生活で数学を利用する機会があることを伝える。また、交通安全教育にも活用し、日頃の注意を喚起する。 	

車は急には止まれない？

$$\text{【停止距離】} = \text{【空走距離】} + \text{【制動距離】}$$

【空走距離】 判断してからブレーキを踏み込みブレーキが効き始めるまでの距離

【制動距離】 ブレーキが効き始めてから、自動車が停止するまでの距離



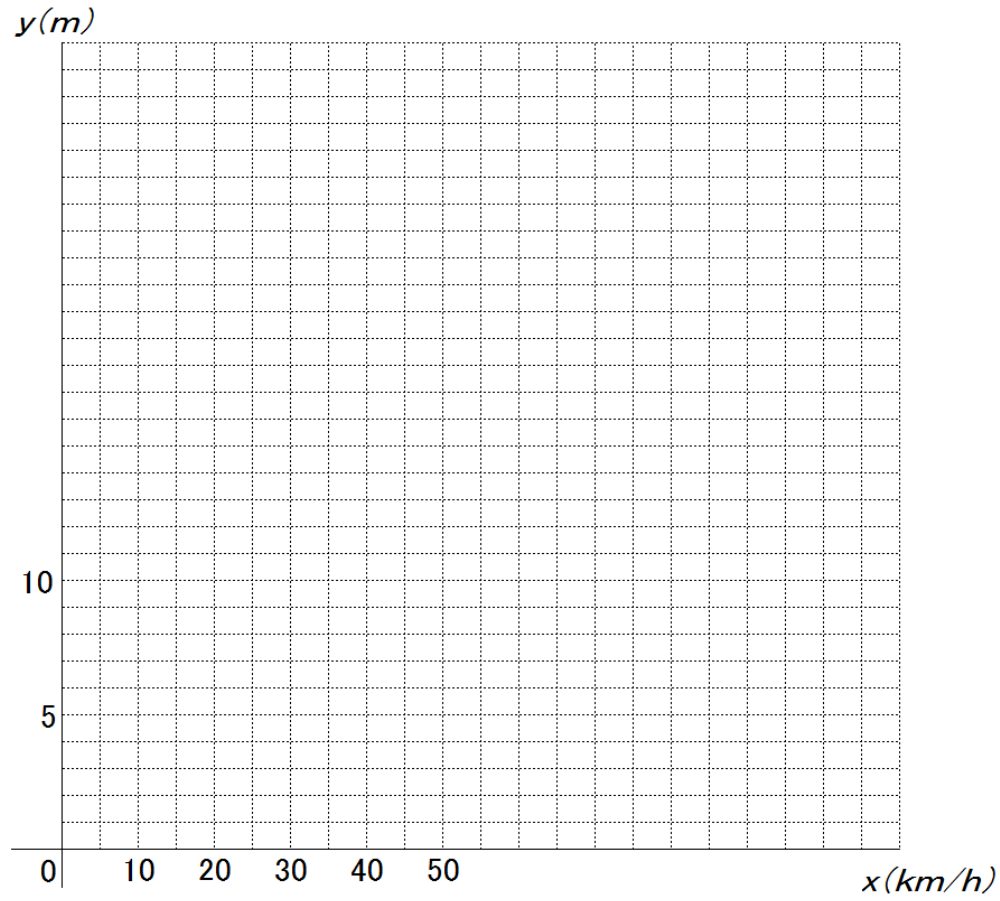
Q.時速 100km の自動車が止まるまでに走る距離を求めてみよう。

予想 _____ m

ワークシート② 車は急には止まらない？～空走距離～

<グラフ>

<式>

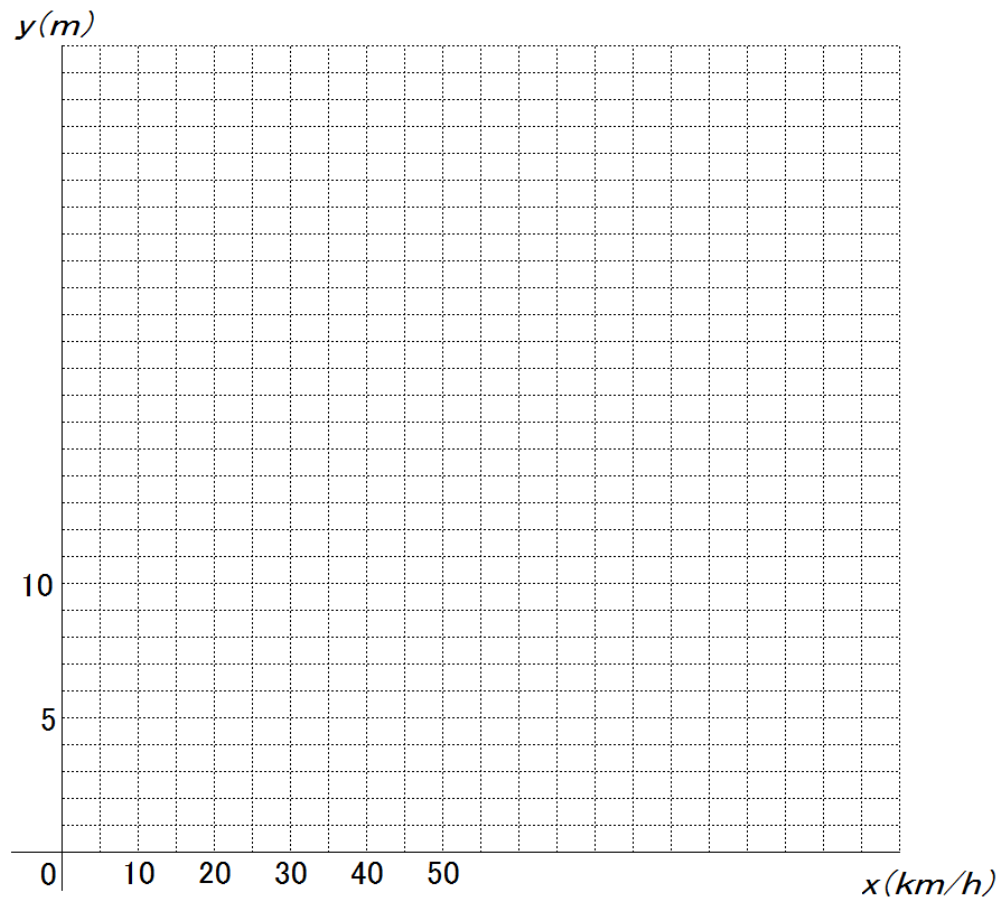


<表>

車は急には止まらない？～制動距離～

<グラフ>

<式>



<表>

2乗に比例する関数 レディネステスト

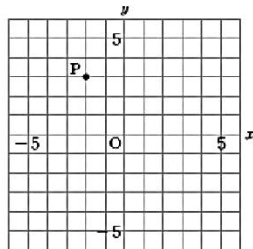
氏名 ()

1 下のアからオまでの中に、 y が x の関数であるものがあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 生徒数が x 人の学校の校庭の面積 y m^2
- イ 底面積が x cm^2 の直方体の体積 y cm^3
- ウ 身長が x cm の人の体重 y kg
- エ 自然数 x の倍数 y
- オ 整数 x の絶対値 y

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) 下の図において、点Pの座標を書きなさい。



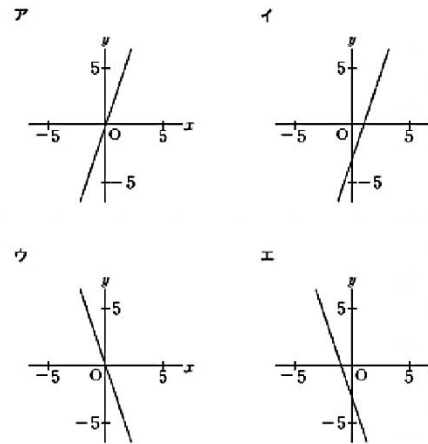
(2) 比例定数が3である比例の式を、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア $y = 3x$
- イ $y = -3x$
- ウ $y = 2x + 3$
- エ $y = -2x - 3$
- オ $y = \frac{3}{x}$

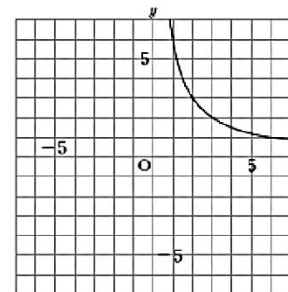
(3) 下の表は、 y が x に比例する関係を表しています。

x	...	1	2	3	4	...
y	...	-3	-6	-9	-12	...

下のアからエまでの中に、上の表の x と y の関係を表すグラフがあります。正しいものを1つ選びなさい。



(4) 下の図の曲線は、反比例 $y = \frac{6}{x}$ のグラフの一部です。この反比例のグラフを完成しなさい。



3 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

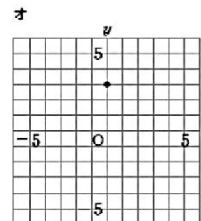
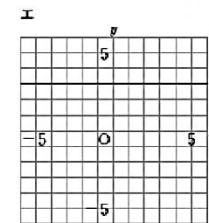
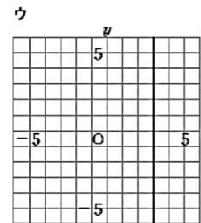
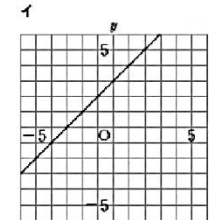
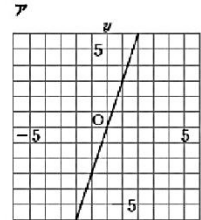
(1) 一次関数 $y = 2x - 1$ について、 x の値が3のときの y の値を求めなさい。

(2) 下の表は、ある一次関数について、 x の値と y の値の関係を示したものです。この一次関数の変化の割合を求めなさい。

x	...	-2	-1	0	1	2	...
y	...	-9	-4	1	6	11	...

4 水が5L入っている水そうに、毎分3Lの割合で、いっぱいになるまで水を入れます。水を入れ始めてから x 分後の水そうの水の量を y L とするとき、 y を x の式で表しなさい。

5 下のアからオまでの中に、二元一次方程式 $y = 3$ のグラフがあります。正しいものを1つ選びなさい。



数学科における『アシストシート』の活用について

1. アシストシートとは…

- ・「アシストシート」は、NRT、CRTの実施後に、弱点の補充のために活用できる無料の補充学習資料であり、図書文化社ホームページからダウンロードすることができる。
- ・学習のポイントが示された「基本問題」と「チャレンジ問題」、それぞれに対応する「解答・アドバイス」の4枚のシートで構成されている。

2. アシストシートの活用例

- (1) 学年の教科単位でまとめてダウンロードすることも可能となっているので、学校でまとめてダウンロードを行って整理し、学校全体で取り組む活用や、復習用の教材としても利用可能である。
- (2) 学年・教科・領域ごとに細分化され、個別に選んでダウンロードできるので、児童生徒一人一人の検査結果に応じた学習資料を選んで提供する事が可能である。

3. 愛宕台中学校・数学科としての実践

(1) 活用方法

① NRTの実施後に、弱点の補充学習資料に活用

② 1学年の数学科でまとめてダウンロードし、家庭学習用の教材としても利用

具体的な方法 〈○生徒の活動、◎教師の活動〉

○1週間分のシートをまとめて配布して、1日1枚ずつ家庭学習で活用する。

○基本問題に取り組むか、チャレンジ問題に取り組むか、両方取り組むか、については生徒の判断で行う。

○自己採点を行い、週に一度提出する。

◎教師は誤答を記録し、生徒一人一人の弱点を把握する。

(2) 活用によって見られた成果

- ・基本問題は最初に学習のポイントが明記されている。この情報を元に各自が学習を進められるよう配慮されているため、「自学自習」を行うことができる。
- ・活用によって家庭学習の定着が図れたため、シート終了後に同様の課題を与えたときにも、着実に学習を進めることができる。
- ・NRT検査で全国と比較して低い値を示した内容は、「分数の乗法」「比例」「反比例」「文字の式」「台形の求積」などである。この内容に関するアシストシートの結果は、以下の通りである。ただし、誤答の人数のみを提示。

【分数基本】 1(1) 2名 1(2) 3名 1(3) 2名 1(4) 3名
2(1) 4名 2(2) 3名 2(3) 2名 2(4) 2名

※NRT学年通過率は0～8% (人数表記では0～3人通過/38人中)

【比例基本】 1(1) 2名 1(2) 3名 1(3) 3名 1(4) 3名
2(1) 5名 2(2) 6名 2(3) 4名 2(4) 5名

※NRT学年通過率は18～76% (人数表記では7～29人通過/38人中)

【面積の求積基本】 1(1) 0人 1(2) 2人 1(3) 0人 1(4) 3人
2(1) 2人 2(2) 9人 3(1) 4人 3(2) 5人

※NRT学年通過率は0～8% (人数表記では0～3人通過/38人中)

【文字の式基本】 1(1) 1人 1(2) 1人 1(3) 0人 1(4) 0人
2(1) 4人 2(2) 5人 2(3) 7人

※NRT学年通過率は0～26% (人数表記では0～10人通過/38人中)

成 果

- ・おおむねアシストシートの方が通過率は高くなっていた。
- ・中学校での履修範囲である基本的な計算問題について1ヶ月(28回)分の補充をした結果、授業前に行っている5分間テストは、取り組み速度が幾分速くなったように感じる。

(3) 今後活用を進める先生方へのコメント

今回は、初めての活用ということもあり手探りの状態で進めたが、このシートを有効に活用するためには、教師が生徒一人一人に適切な課題を示す必要がある。生徒と事前に面談し、「基本コース」を選ぶのか、「チャレンジコース」を選ぶのか、最良の選択ができるようにすることが肝要である。また、個別のアシストシートは、生徒個々の弱点を押さえた内容に絞られているので、このシートを活用することでも補充学習を進めることが可能になる。

足利市では、テストバッテリーを中学校1年生の4月に実施しているため、出題範囲が小学校の内容である。その結果分析から、生徒一人一人が中学校入学の段階で「何ができていないのか」「どこを補充すればいいのか」が明確になったことは大きな収穫である。漠然と「分数が苦手らしい」「割合にはつまずきがある」ということが分かったとしても、具体的にどこに課題があるのかははっきりしないが、今回の結果を通して「分数を苦手とする生徒は、分母の公倍数を探すことや分母分子の両方に同じ数をかけること」「割合を苦手とする生徒は、割合を求めることはできて、割合を使ってもとにする数量や比べられる数量を求めること」でつまずいていることが明らかになった。この点を今後の指導に生かしていくことが可能となる。図形分野でも、平行四辺形の求積は正答率が低いため、今後の授業において、意図的に活用していきたい。

今まではNRTの実施後、結果を見て一喜一憂していただけだったが、今回の研究によって、アシストシートを用いて事後の指導に生かすことの重要性を痛感した。せつかくのテストバッテリー調査を生かすも無駄にするのも、それを扱う教師次第だと感じる。分析の“その先”を大切にしていくことは「全国学力調査」でも「とちぎっ子学力調査」でも共通することなので、皆さん、有効に活用していきましょう。

中学1年生理科の『物質の姿と状態変化』における実践

1 単元名 身の回りの物質

2 単元について

(1) 単元観

本単元による学習のねらいは、物質の性質および物質の状態変化のようすについての観察、実験を行い、物質の性質や溶解、状態変化について理解させるとともに、物質を調べるための実験器具の操作や、実験結果の記録の仕方やレポートの書き方などの記号を習得させること、および物質をその性質に基づいて分類したり、分離したりする能力を育てることである。

本単元の学習を展開するにあたっては、物体と物質を区別させるところから導入し、より高度な見分け方を習得するようにしている。その過程において、観察・実験の方法、器具の操作、記録の仕方などの基礎的な技術を習得するとともに、物質に直接触れて調べる楽しさと意欲を養い、物質に対する興味・関心を高めるようにしたい。さらに、身の回りの物質について、加熱や冷却をしたときの状態変化のようすを観察させ、物質についての巨視的な見方・考え方の学習を通して、微視的な見方の基盤を養い、これらの事象に対する関心・態度と科学的な見方・考え方を身に付けさせるようにしたい。

(2) 学級の実態

ア：日常の観察

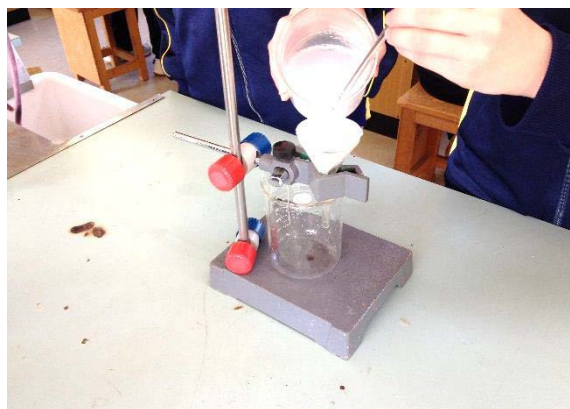
明るく活発で元気な生徒が多い。小規模な学校のため、係活動や委員会活動など、生徒が活躍する場が多く、同学年どうしの横の交流だけでなく、異学年との縦の交流も活発である。

各教科で話し合い活動を多く取り入れている。その成果もあって、クラスメイトに分かりやすく自分の考えを話す態度や、クラスメイトの話聞く態度もきちんとできている。また、授業中にはよく挙手をして発言する。理科の時間の実験でも、男女関係なく積極的に参加して、協力して取り組むことができている。

イ：レディネステストから

・物質が水に溶ける様子

モデルとは、目に見えない現象や複雑な現象を、模型や図などを用いて、分かりやすく単純で、具体的な姿で表したものである。水に溶ける物質の実験結果を説明する際に、モデルが導入される。そこで目に見えなくなっても、物質は存在していることを学習し、これは、物質が目に見えないほど小さな



粒子にばらばらになったと考えることと、物質が目に見えないほど小さな粒子からできているという考えを、粒子のモデルということを利用して学習する。

①砂糖が水に溶ける様子を、粒子のモデルで表すことができたか？ 20人/20人

②水に溶けた砂糖が、小さい粒子になったから見えないことを理解できたか？

15人/20人

粒子のモデルの導入であるため、十分に時間をとって学習を進めた。砂糖が水に溶ける様子を、粒子のモデルで表すことは全員ができたが、水に溶けるということが、物質が目に見えないほど小さい粒子になるということは、5人が理解できないでいた。そこで、砂糖一粒一粒を見ることは難しいが、大きなまとまりになると見えやすいことを例にして、全員が理解できるよう試みた。

・溶解度をモデルで考える

溶解度をいす取りゲームに例えて考えた。

①5人でいす取りゲームをするとき、いすが5脚あれば、5人全員が座れる。(このときが飽和の状態である)

②いすを1つ減らして4脚にした。(「いすを減らす=温度が下がる」と考える)

③5人のうち、1人が座れなくなる。(温度が下がって、溶けていた物質が結晶として出てきた状態)

④いすを2つ減らして3脚にした。5人のうち、2人が座れなくなる。(より温度が低くなって、結晶として出てくる量が増えた状態)

いす取りゲームの例で、水に溶けていた物質が、水に溶けていられなくなることを理解させることを試みた。実際に体を動かす活動だったので、いすに座れなかった人が溶けない物質であることを全員が理解できた。また、溶解度曲線が温度上昇によって増加することを、いすの数の増えていくことに例えたので、温度が上昇すると水に溶ける物質の量が増えることも理解できた。

ウ：プレテストの結果から

①複雑な現象をモデルで表すと、分かりやすく説明できることを理解できたか？

20人/20人

②水に溶けた物質が、目には見えなくても、水の中に存在していることをモデルを使って説明できるか？

12人/20人

③水温が下がると、水に溶けていた物質が結晶となって現れることを、モデルを使って説明できるか？

15人/20人

モデルで表すという方法については、生徒全員が理解できていたが、実際にそれを使って説明をすると、できない生徒が半数ほどいる。粒子のモデルは、2年生で学習する原子の単元につながっているので、状態変化での体積の変化と質量の変化を粒子

についての知識・理解」で全国平均を下回っている。

(2) 抽出生徒の実態

①生徒A

○日常の観察や調査から

落ち着いた生活態度で、比較のおとなしい方だが、仲の良いクラスメイトと休み時間などは楽しそうにおしゃべりをして過ごしている。授業中に挙手をすることはないが、指名されればきちんと自分の意見を発表することができる。

課題解決スタイルは「緩行型」で、時間をかけて問題解決に取り組んでいるが、正しい解答にたどり着くことができている傾向にあるので、正解にたどり着くための適切なアドバイスが適時必要である。

○知能検査より

・学習ペース：L ・学習適性：バランスタイプ ・課題解決スタイル：緩行型

○AAIより

・指導や援助が必要な学習要因 「自分の努力が足りないと感じている」

○学力・AAIクロス集計より

・Ⅱ 学力向上支援群

○知能・学力相関座標より

・普通

○NRT検査・理科の分析診断表より

・理科偏差値41、5段階中2である。「粒子」の領域の正答率が33%と最も低い。

②生徒B

○日常の観察や調査から

元気で明るく活発な性格である。授業にも積極的に参加し、挙手をして自分の意見を発表している。

課題解決スタイルは「悠長型」で、時間をかけて問題解決に取り組んでいる。しかし、持続力がもたないところがあり、解決に導くための適切なアドバイスと根気強く問題解決に取り組めるような声かけが必要である。

○知能検査より

・学習ペース：L ・学習適性：B（感覚運動型） ・課題解決スタイル：悠長型

○AAIより

・指導や援助が必要な学習要因 「続ける力」「本の読み方・ノートを取り方」

○学力・AAIクロス集計より

・Ⅱ 学力向上支援群

○知能・学力相関座標より

・アンダー・アチーパー

○NRT検査・理科の分析診断表より

・理科偏差値45、5段階中2である。「粒子」の領域の正答率が27%と最も低い。

4 単元の指導計画および評価規準

時	主な学習内容	学習目標	評価規準	抽出生徒への支援
1	状態変化について説明を聞き、まとめる。	固体・液体・気体のように、状態が変わる変化について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物質が、固体、液体、気体に区別できることを指摘できる。 (科学的な思考・表現) 状態変化は、温度によって物質の姿が変化する現象であることを説明できる。 (知識・理解) 	A・B：水を例に出して、状態変化のイメージをつかませる。
2	状態変化するときの体積と質量を調べる。	状態変化では、体積は変化するが、質量は変化しないことを見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> 水以外の物質が状態変化をするときに、体積や質量がどのように変化するかを予想して、意見を発表できる。 (関心・意欲・態度) ロウの状態が変化する際、体積は変化するが、質量は保存されることを見だし、説明できる。 (科学的な思考・表現) 	<p>A：実験結果を予想する時間を十分にとって考えをまとめさせる。</p> <p>B：粘り強く考えるように呼びかけをする。</p>
3 本時	状態変化と体積・質量との関係について説明を聞き、まとめる。	液体が固体になるときの体積変化や気体になるときの体積変化について、粒子のモデルで説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 物体の状態が変化する様子を粒子のモデルを使って表すことができる。 (科学的な思考・表現) 	<p>A：時間を十分にとって考えをまとめさせる。</p> <p>B：モデルを活用して視覚的な視点から考えをまとめさせる。</p>
4	エタノールが沸騰するときの温度を測定する。	エタノールが沸騰するときの温度変化を調べ、測定結果をグラフで表す。	<ul style="list-style-type: none"> 沸点の測定を正しく行うことができる。 (観察・実験の技能) エタノールを加熱したときの温度変化の結果をグラフに表すことができる。 (観察・実験の技能) 	A・B：グラフをかく作業に時間を十分にとる。

5	沸点と融点について説明を聞き、確認する。	固体から液体になるときの温度と液体から気体になるときの温度について理解する。	・融点や沸点は、物質の種類によって決まっていることを理解する。(知識・理解)	A・B：表に載っている物質について、時間をかけて説明する。
6	赤ワインを熱して出てくる物質を調べる。	水とエタノールの混合物からエタノールを取り出す。	・2種類の液体の混合物から物質を分離できるか進んで調べている。(関心・意欲・態度) ・水とエタノールの混合物の蒸留を正しく行い、分離した物質を同定できる。(観察・実験の技能)	A：結果から物質を判断する際にアドバイスを与える。 B：粘り強く結果から物質を判断できるように呼びかけする。

5 本時の指導

(1) 題材名 物質の姿と状態変化

(2) ねらい

液体が固体になるときの体積変化や気体になるときの体積変化について、粒子のモデルで説明する。

(3) 評価規準

○物体の状態が変化するときの様子を、粒子のモデルを使って表すことができる。

(おおむね満足できる状況)

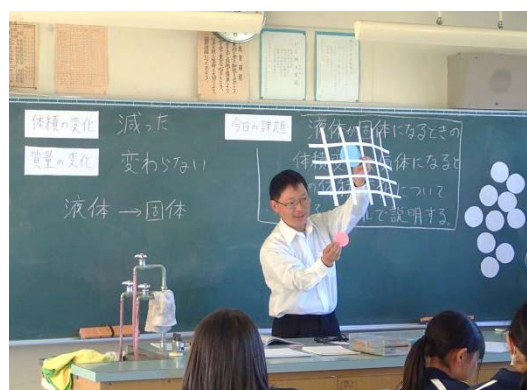
○粒子のモデルから、体積は変化するが、質量

は変化しないことを説明することができる。(十分満足できる状況)

(4) 抽出生徒への主な支援

2人とも学習ペースが遅いので、考える時間を十分にとるようにする。また、モデルで説明することがねらいなので、粒子のモデルを生徒たちに画用紙で作らせ、粒子どうしの距離が近づいたり、遠ざかったりすることで、状態変化では体積は変化するが、粒子の数が変化しないから質量は保存されることを、視覚的に理解できるようにする。

具体的は方法として、「学習プリント」の工夫を行い、「グループ活動」での役割分担をきちんと行い、活動や発言の機会を確保するとともに、机間指導時に、個別の「問いかけ」を行うことによって、考える時間や場を作ることで支援を行うこととした。



(5) 展開

◎は抽出生徒への支援

★は人権教育の視点

学習活動	時間 (形態)	活動への支援	評価の観点および 評価の基準 (方法)
1. 前時の実験の結果を確認する。	10分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・体積は変化するが、質量は変化しなかったことを思い出させる。 ・物質が液体に溶ける様子を学習した際に用いた粒子の考え方を振り返らせる。 	
2. 本時の学習内容を確認する。	10分 一斉		
固体・液体・気体の状態変化について、粒子でどのように説明できるか考えよう。			
3. 粒子のモデルを作る。	5分 個人	<ul style="list-style-type: none"> ・けがをしないように丁寧に作らせる。 	
4. モデルを実際を使って固体の状態、液体の状態、気体の状態を表現する。	5分 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ★机間指導を通して、話し合いの様子から人間関係を把握する。 [距離に視点を置かせる] ◎十分に考える時間をとる。 ◎モデルを動かして、視覚的に考えるようにさせる。 [数に視点を置かせる] ◎十分に考える時間をとる。 ◎モデルを動かして、視覚的に考えるようにさせる。 	
5. 状態変化では質量が保存されることをモデルで表現する。	5分 グループ		
6. 代表の生徒が黒板で発表する。	10分 一斉		
7. 学習のまとめをする。	5分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を記入させ、自分の考えを持たせる。 	

6 考察

(1) 抽出生徒について

ア 生徒 A

授業の観察等 (授業者・参観者より)

- ・机間指導を意図的にこまめに行うことで、生徒の集中力が途切れることが少なくなった。その結果、授業内容の理解が深まり、挙手をする場面が見られるなど、学習に対する自信とやる気を見せていた。

- ・学習プリントでの支援
独力で解決しようという努力をしていた。正答にはたどりつけなかったが、あきらめずに努力を続ける様子が見られた。机間指導での小まめなヒントは効果的であった。
- ・グループ活動での支援
あまり発言をするタイプではなさそうだったが、班員たちと協力をして作業をする様子が多々見られた。結果の発表を行えたことは、素晴らしかった。
- ・問いかけでの支援
丁寧な机間指導をして、本人が正答にたどりついているかどうかを確認していた。先生と生徒の自然なやりとりの中で正答を発表できたことは、本人の自信につながっていたと思う。

イ 生徒B

授業の観察等（授業者・参観者より）

- ・これまで集中力が持続できないことが多かったが、モデルを自作させ、それを活用した授業展開は、事後の振り返りカードからも集中して取り組めたようだった。
- ・学習プリントでの支援
独力で解決しようと努力している様子が見られたが、困った表情を浮かべることも多かった。先生の机間指導で、ゆっくり考えて良いことなどの言葉かけやモデル操作の支援が効果的だった。
- ・グループ活動での支援
実験を行う際には、積極的にリーダーシップを発揮して取り組んでいる。準備や片付けもきちんと行っていた。
- ・問いかけでの支援
挙手をしたり、教科書を音読するなど積極的に授業に参加していた。

(2) クラス全体について

- ・粒子のモデルの学習では、学習ペースでHタイプの生徒が半数以上いるが、学習ペースがLタイプの生徒のために、時間を十分にかけて取り組んだ。学習適性では、抽象言語型と感覚運動型のバランスが取れているクラスであるが、モデルの図をかいたり、作ったりする作業を多くして、視覚的に理解を深められるような展開を用いた。
- ・課題解決スタイルでの「正確さ」においては、「不正確」な生徒のために、課題解決の場面では十分に考える時間を取ることを配慮した。
- ・NRT検査の理科の分析結果において、「粒子」の内容の定着が不十分であると考えられるため、今回の授業では、粒子のモデルで現象を考える題材を多く取り扱うことにした。今回の授業では、生徒個人がモデルを自作して、状態変化で体積が変化することを、視覚的に体感できるような工夫をした。モデルを切りとる際に個人差が多少できてしまったが、生徒に作業をさせる時間を作れたことと、モデルで用いる粒子が丸い形をしていることを生徒に印象付けられた。

中学2年・英語科の『「話す」から「書く力」に繋げる』実践

- 1 単元名 New Crown English Series (三省堂)
Lesson 7 Good Presentations 「比較級、最上級」

2 単元の目標

- (1) 自分の持っている情報、アイデア、主張を聞き手に伝えようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 比較級を含むウェブサイトの記事を読んで、その内容を読み取る。(外国語理解の能力)
- (3) 比較級を含むプレゼンテーションを聞いて、その内容を読み取る。(外国語理解の能力)
- (4) 自分の持っている情報、アイデア、主張を書き、口頭で紹介する。
(外国語表現の能力)
- (5) 比較級、最上級を用いた文の構造を理解する。(言語や文化についての知識・理解)

3 単元について

(1) 単元観

本単元では、登場人物たちが、自分たちの興味・関心のある題材についてプレゼンテーションを行っている。彼らは、表やグラフ、図などを用いながら聞き手に分かりやすく発表をしている。

学習内容は、情報を視覚的に伝えることが理解を助け、事実を正確に伝えるのに有効的である。生徒たちは、自分が興味のある身近な内容について友人にインタビューし、それについて表、グラフ、図等を用いて、それぞれ工夫してプレゼンテーションに取り組む。

この活動を通して、2年間で学んだ語彙、表現方法、言語材料などについての定着を図る。また、比較級や最上級の表現を用いながら、事実を分かりやすく伝えることを前提にコミュニケーションの基礎を養う。

(2) 生徒観

今年度4月に実施した「とちぎっ子学習状況調査」の結果によると、全体的に栃木県の平均を大きく下回っている。4技能のうち「聞く力」については栃木県の平均値であるが、「書く力」に関しては、特に努力を要する結果となった。定期的に行っている会話テストの結果から見ると「話す力」はついていていると感じる。また、「とちぎっ子学習状況調査」で実施したアンケートからは、英語学習に対して苦手意識を持っている生徒が多いという結果が出ており、家庭学習をしている生徒がかなり少ない事も分かった。しかし、授業中の様子から見ると、会話活動においては、積極的に興味を持って取り組む姿が多く見られる。対話の内容がパターン化していれば、スムーズに会話活動に取り組むことができるので、今後は、パターンプラクティスで培った力を実際の会話に近い場面でも対応することができるよう、応用力をつけさせる必要がある。

(3) 指導観

本單元の中で比較級、最上級、同等の比較と3つの比較の表現が取り上げられる。比較表現を用いた内容は、生徒にとって興味深い内容のものである。ただ、比較の種類によって、語の語尾が変わり、また語によって **more** や **most** を伴って、語尾は変化しないものもあるというように、その多用さに生徒はつまずくと考えられる。よって、生徒の抵抗を無くすために、基礎定着プリント「ベラベラステーション」や会話プリント「ピンポイントキング」でパターンプラクティスを行い、基礎・基本の定着を図りたい。

また、学習活動の中で、自分たちの興味のあることについて友達にインタビューし、その結果について比較級・最上級を使ってプレゼンテーション（または、**show & tell** の形）を行う。その発表を通して、物事を分かりやすく伝えることや発表者の説明を聞いて理解することを経験させ、コミュニケーションへの関心・意欲を高めていきたい。

また、プレゼンテーションを行った後、質疑応答をする機会を設け、プレゼンテーションを一方的な発信で終わらせるのではなく、コミュニケーションを図るきっかけにしたい。まとまった内容を表現することは、生徒にとって負担が大きいことである。特に、本校の生徒にはかなりの抵抗があるため、少しずつ関連事項の練習を毎時間の授業で積み重ねていくことで、生徒への負担を軽減し、自由な発想で自己表現をさせたい。

4 研究主題との関連（とちぎっ子学習状況調査の結果から）

(1) クラス全体の傾向

努力家の生徒が多く、自主的に家庭学習に取り組む生徒も見られる。単語テストや定期テストの結果を見ると、得点率は平均的であるが、「とちぎっ子学習状況調査」の結果を見ると、「書く力」が著しく低い。特に、「外国語表現の能力」を問う問題では、「書く力」が課題となる。

例えば、大問題【8】の場面設定をした英作文は、正答率が著しく低かった。(1)私を手伝ってほしいということを伝える場合。(2)一緒に昼食を食べようということを伝える場合。という2問は、解答できていない生徒が多かった。いずれも正答は、(1)**Please help me.** (2)**Let's eat lunch.** である。仮に、問題が『(1)「私を手伝ってください。」を英訳しなさい。(2)「昼食を食べましょう。」を英訳しなさい。』という問題であれば、正答率は向上したと思われる。既習の言語材料と英語表現をどんな場面でどのように使ったら良いのか、理解できていない生徒が多いということである。『日本語を英語に、英語を日本語に』というような指示ではなく、『英語を使う場面』の設定をし、その上で必要となる表現を考える力（応用力）をつけさせたい。日頃の授業で使用するワークシート等でも、『英語を使う場面』を意識させることのできる工夫や改善が必要であると考えられる。

このようなことを踏まえ、生徒の「話すこと」と「聞くこと」の能力は高いので、会話活動の中で『英語を使う場面』を通して、楽しみながら「書く力」に自然と結び付けられないか考えた。

○総合評価《5段階》 5・・・0名 4・・・9名 3・・・5名
2・・・14名 1・・・1名 計29名
飛び抜けてできる生徒が一人もいない。平均のクラス。
下部層も多い。

(2) 抽出生徒の実態

《生徒A》

○日常の観察や調査から

落ち着いた態度で生活し、礼儀正しく言葉遣いも丁寧である。授業中も熱心に話を聞き、一生懸命にノートを見やすくまとめている。非常に真面目であり、何事にも手を抜かず取り組むことができる。常に目標を高く持ち、それに向かい努力を惜しまない。表現の能力に関しては、控えめな性格であるため、声が小さく消極的な面もある。ただ、様々なことに挑戦しようとする姿は大変素晴らしい。

○とちぎっ子学習状況調査結果

教科総合評価 4 (5段階中)

正答率 70.0 基礎・基本正答率 83.3 思考・判断・表現正答率 50.0

問題の内容別評価 (△+5ポイント以上の場合、≡平均、▼-5ポイント未満の場合)

対話文の聞き取りと対応△ まとまりのある英文の聞き取り▼ 文法の理解△

まとまりのある英文の読み取り▼ 手紙の読み取り△ 語順の理解△

場面や条件に応じた英作文▼ テーマに基づく英作文△

○とちぎっ子学習状況調査結果より

以上の結果から判断すると、自主学習や日頃の学習意欲により、基礎・基本の能力はある。

しかし、まとまりのある英文の読み取りや聞き取り、場面や条件に応じた英作文など、応用力を問われる問題となると、理解力が欠ける。これは、問題慣れしていないことが原因であると考えられる。基礎は定着しているので、日頃の授業において応用力を付ける問いかけに慣れさせることにより、さらなる学力の向上が期待できる。

《生徒B》

○日常の観察や調査から

明るく元気があり、運動面でも活躍している。周りの人を楽しませる才能に恵まれ、学級の雰囲気を楽しめるものになっている。理解力は低いが、何事にも積極的に取り組むことができる大変素直な性格である。授業中は熱心に取り組み、前向きに努力する姿も見せる。1年生の時の基礎学力が付いていないため、英語学習に対して苦手意識はあるが、2年生になってからは、努力を続けており、今後期待ができる。

○とちぎっ子学習状況調査結果

教科総合評価 2 (5段階中)

正答率 36.7 基礎・基本正答率 44.4 思考・判断・表現正答率 25.0

問題の内容別評価 (△+5ポイント以上の場合、≡平均、▼-5ポイント未満の場合)

対話文の聞き取りと対応△ まとまりのある英文の聞き取り△ 文法の理解▼

まとまりのある英文の読み取り▼ 手紙の読み取り▼ 語順の理解▼

場面や条件に応じた英作文▼ テーマに基づく英作文▼

○とちぎっ子学習状況調査結果より

聞き取る力は高く、日頃の授業態度から見ても、積極的に会話活動には参加している。明るく誰とでも気軽に話すことができる性格なので、英会話に対しても抵抗はない。しかし、基礎・基本の徹底が必要であり、まずは基礎学力を付けるために、パターンプラクティスで補いたい。英会話や英語のゲームにおいて会話力を付け、書く力に繋がれると良いと考える。

5 単元の指導計画および評価計画 (別紙1)

6 本時の指導

(1) 題材名 Lesson7 Section②「比較級・最上級」

(2) 本時の目標

・比較級、最上級を用いて積極的に対話している。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

・比較級、最上級を適切に用いて、対話することができる。 (表現の能力)

・比較表現が含まれる英文を聞いて、その内容を理解し、適切に対応することができる。

(理解の能力、表現の能力)

(3) 本時の授業と研究テーマとの関連

4の研究主題との関連でも述べたように、本校の生徒は、「場面に応じた英会話対応能力」に欠けている。既習の言語材料や英語表現を、実生活でどのように使用したらよいか、理解できない生徒が多い。よって、授業の前半では、パターンプラクティスにより、比較級・最上級の基本表現を繰り返し学習することにより基礎学力を付けたい。まずは大きな声で音読し、その声が入り、自然と覚えらるという過程を踏まえた繰り返し学習をすることにより、書く力を付け、確かな学力に繋がりたい。

その後、場面設定をした言語活動を通して応用力を付けさせたい。最後に単なる「英語訳」に留まらず、場面設定をした「表現力」を問う問題を、定期テストや小テストでも出題率を増やし応用力を向上させたい。視聴覚教材を工夫して使用し、パターンプラクティスが単純化して学習に飽きが来ないように、生徒の興味・関心に訴えられる内容の

ものを工夫していきたい。

(4) 抽出生徒への主な支援

《生徒A・B他、全生徒に対して》

前半のパターンプラクティスは、毎回継続しているワークシートの中の一つであるため、机間指導を行い、つまづいている生徒がいないかを見取る。中盤の基礎問題の復習に関しては、視聴覚教材を利用し、生徒の興味・関心に訴える問題にする。基本となる文章を使い、後半の言語活動にスムーズに生かせる内容のものにする。

(5) 展開（別紙2）

5 単元の指導と評価の計画

1	単元名	Lesson 7 Good Presentations						
2	単元の目標	(1) 間違ふことを恐れずに、自分の持っている情報、アイデア、主張を聞き手に伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) (2) 比較級を含むウェブサイトの記事を読んで、その内容を読み取る。(外国語理解の能力) (3) 比較級を含むプレゼンテーションを聞いて、その内容を聞き取る。(外国語理解の能力) (4) 自分の持っている情報、アイデア、主張を書き、口頭で紹介する。(外国語表現の能力) (5) 比較級、最上級を用いた文の構造を理解する。(言語や文化についての知識・理解)			<中心となる言語活動> ??? ・7人の小人の年齢順を尋ね合う活動 ・比較級・最上級を用いた質問に、適切に答える活動。			
3	単元の評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (言語活動への取組)	外国語表現の能力 (適切な発話・筆記)	外国語理解の能力 (正確な読み取り)	言語や文化についての知識・理解 (言語についての知識)			
		○間違ふことを恐れずに、自分の持っている情報、アイデア、主張を聞き手に伝えようとしている。	○自分の持っている情報、アイデア、主張を書き、口頭で紹介することができる。	○比較級を含むウェブサイトの記事を読んで、その内容を読み取ることができる。 ○比較級を含むプレゼンテーションを聞いて、その内容を聞き取ることができる。	○比較級、最上級を用いた文の構造を理解することができる。			
4 単元の指導と評価の計画								
時	目標	主な言語活動	評価の重点				評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される生徒への指導の手立て
			関心	表現	理解	言語		
1	2つのものを比べる言い方を知る。	・比較級を用いて、ペアでインタビューをする。	○	○			・比較級を用いて積極的に対話している。(観察) ・比較級を適切に用いて友達と対話できる。(観察・ワークシート)	・個別に対話のパターンを練習する。必要に応じてワークシートに戻り、文構造を確認する。
2	セクション1の概要をつかむ。	・Q&Aを通して内容を確認し、音読する。 ・教科書を何度も音読する。			○	○	・本文の内容に関する問いに、日本語や簡単な英語で答えることができる。(観察) ・比較級を適切に用いて、自分の家族を友達に紹介できる。(ノート・観察)	・比較表現が用いられている文を見つけ、比べるものと比べられるもの、比較の方法を確認させる。
3	3つ以上のものを比べる言い方を知る。	・最上級を用いてクラスや学校、世界、日本、足利のNo1クイズをつくる。	○	○			・積極的にクイズに答えようとしている。(観察) ・最上級を適切に用いて、クラスのNo1について書くことができる。(ワークシート・観察)	・生徒同士で教え合ったり、辞書を活用させ、全員が取り組める雰囲気作りを心掛ける。
4	・身近な物や人を比べる言い方に慣れる。 ・基礎文法を習得する。	・比較級・最上級を用いて、身近な物や人、事柄を比べるインタビューゲームをする。 ・文法プリントを解く。	○	○		○	・積極的にインタビューしようとしている。(観察) ・最上級、比較級を適切に用いて、インタビューすることができる。(観察、ワークシート) ・問題を意欲的に解くことができる。(観察)	・ワークシートを工夫し、学習内容や活動が理解しやすいように配慮する。
5	・セクション2の概要をつかむ。	・Q&Aを通して内容を確認し、音読する。 ・教科書を何度も音読する。			○	○	・本文の内容に関する問いに、日本語や簡単な英語で答えることができる。(観察) ・最上級を用いて、グループで互いの一番を紹介する。(ワークシート・観察)	・最上級が用いられている文を見つけ、どの範囲で、何が一番なのか確認させる。

6	3音節以上の語を使って、物を比べる時の言い方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって大切なもの(長い間使用している物でも可)を題材に、インタビューをする。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に比較級・最上級の文を作っている。(観察) more, most を用いて、何が自分にとって一番大切なかを友達と対話することができる。(ワークシート、観察) 自分にとって大切なものについて、インタビューした結果を簡単にワークシートに書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルの more, most を使う語のうち、使用頻度の高いものをたくさん聞かせ、ひとつのパターンとしてなじませる。
7	セクション3の概要をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> Q&Aを通して内容を確認し、音読する。 教科書を何度も音読する。 		○	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に関する問いに、日本語や簡単な英語で答えることができる。(観察) 前時の自分にとって大切なものについて、考えをまとめ、説明する文を英語で書くことができる。(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> 比較級・最上級が用いられている文を見つけ、何が何とどのように比べられているか確認する。
8	2つの物を比べて、度合いが同じくらいであることを表現する言い方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって、おもしろいもの、興味あるものをあげ、どのくらい興味があるかを、表現する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に対話している。(観察) as 形容詞 as を用いて程度が同じであることを伝えることができる。(観察・ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 原級を用いることを意識させる。
9 本時	比較表現を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> 比較級や最上級を用いた様々な内容のクイズに答える。 比較級や最上級を用いた文を使い、白雪姫に出てくる小人の年齢順を尋ねる。 場面設定をした英語表現を書く。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にクイズに答えようとしている。(観察) 比較表現を適切に用いて、年齢順を尋ねることができる。(観察・ワークシート) 英語の問題に答えることができる。(ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文字などの付加情報を加え、理解が進むよう配慮する。 帯学習を活用して繰り返し練習を行い、ペア活動に活かせるよう支援する。
10 11	USE Read の概要をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解する。 Pre-Reading, In-Reading1,2の問題に答える。 		○	<ul style="list-style-type: none"> USE Read のウェブサイトの情報を読んで、その概要を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や文字などの付加情報を加え、理解が進むよう配慮する。 発問を工夫し、問題の内容理解を支援する。
12	比較表現を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> 比較級や最上級を用い、自分にとって大切なもの、興味があるものを紹介する文を書く。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に文を書こうとしている。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で教え合う雰囲気作りを心掛ける。 発表の準備を早めに行い、次時に自信を持って取り組めるようにする。
13	自己表現活動をする。	<ul style="list-style-type: none"> Show & tell の形で前時に準備したものを発表する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションを意識して積極的に発表している。(観察) 比較表現を適切に用いて、自分の意志が正しく聞き手に伝わるように発表できる。(観察) 	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクト、相づち、問いかけを意識させる。
14	比較表現、語句の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 単元末テストを行う。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 比較表現を適切に用いて、自分の伝えたい内容を正確に伝えることができる。 比較表現が含まれる文を読んだり聞いたりして、その内容を正確に理解できる。 比較表現の文の意味、構造を理解している。(全てテスト用紙) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書やワークの該当ページやベラベラステーションを参照し、復習させる。

(5) 展開

学習活動	時間	指導・支援の留意点 ◎人権教育上の配慮 ☆努力を要する生徒への手だて	評価 A：十分満足できる B：おおむね満足できる)	資料
1 あいさつ 2 ウォーミングアップ① Rows & columns (生徒が前に出て質問する：順番) ウォーミングアップ② ベラベラステーション (ペアになり、1分30秒間ずつ問題を出し合う。基本文和文英訳)	1 3 5	・既習の英語表現を確認しながら、積極的に会話をしようとする意欲を掻き立てる。 ◎ペア活動を通して、お互いに教え合い助け合うよう指示する。		ワークシート ① ②
3 文法内容確認 ① 文法確認を、ピクチャーカードを使って行う。 ② 文法復習を、パワーポイントを使ってクイズ形式で行う。各班代表1名ずつ解答する。2問ずつ(各班5名)全10問	2 14	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ねらい 比較級、最上級を用いた質問に、適切に答えることができる。</div> ・比較級・最上級の表現を用いた様々な内容のクイズに答える。 ☆生徒は楽しみながら表現できるようにする。		ピクチャーカード パワーポイント (PC) テレビ
4 言語活動ゲーム ①グループで会話練習する。 ②七人の小人を年齢順に並べ替える 本時の表現を、インタビューゲームを通して理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A: Is Dopey older than Sleepy? B: No, he is not. A: Is Sleepy younger than Dopey? B: Yes, he is. A: Who is younger, Sleepy or Dopey. B: Dopey is. </div>	12	言語活動ゲームを始める前に、文法確認をし、会話練習をALTの後にリピートし、全員が楽しく活動に参加できるよう配慮する。 グループになり、お互いに助け合いながら、音読練習をする。	A:大きな声で復唱している。【興味・関心】<観察> A:比較級・最上級を正しく使い、積極的に話すことができる。【興味・関心】【表現】<観察、ワークシート> B:比較級・最上級を使い、話すことができる。【興味・関心】【表現】<観察、ワークシート>	ワークシート ③ 衣装 小道具 ピクチャーカード
5 4の言語活動ゲームまとめ 4で知り得た情報を、英作文でまとめる。「書く力」	3	・ワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【例】 Dopey is older than Sleepy. Sleepy is younger than Dopey. Sleepy is the youngest Dwarf. </div>	A:比較級・最上級を用いた文章を、正確に書くことができる。【表現】【言語・文化】 B:比較級・最上級を用いた文章を、書くことができる。【表現】【言語・文化】<観察、ワークシート>	ワークシート
6 本時の内容確認、自己評価 重要表現を『弾丸インプット』で確認する。	3	・どんな時に、本時の表現が実生活で使われるのか、場面設定をして気づかせ、理解させる。 ・心を落ち着かせ、今日習った表現が身についているか振り返る時間をもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> A: Is A older than B? A: Is B younger than A? A: Who is younger, A or B? </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto; margin-top: 10px;"> A: Is A ○○er than B? A: Is B more ○○ than A? A: Who is ○○er, A or B? </div>	

7 考察

(1) 成 果

「とちぎっ子学習状況調査」の結果では、特に「書く力」に課題がみられたことから、今回の授業研究では、「書く力」を伸ばすための手立てとなる活動に重点を置いた。「書く力」の向上は、単元全体を通して目指すものであり、本時1時間で全ては完結しないが、本時のねらいは達成することができた。具体的には、GWT(グループ・ワーク・トレーニング)によるゲームを効果的に利用し、英語を実際に使う場面を設定できたことである。また、生徒Aは、このグループ活動では、グループのメンバーに、しっかりと声で情報を伝え、「話す」ことに積極的に取り組んだ。生徒Bも、ワークシートに英文をまとめることができ、達成感を持たせる事ができた。

次時の授業では、実際に「書く」活動を実施し、生徒は、書きたいことについて、まずは、口頭で発話することができた。音により文型が定着しているので、今後は綴り定着を目指すことで、「書く力」の構築に迫りたい。

(2) 課 題

今回の授業では、定型文に対しての慣れ親しみから、「書く」ことへ繋げることができたが、今後は、定型文だけではなく、生徒が「伝えたい」という、自発的な発信に焦点をあてて、「書く力」の育成に努める必要がある。そのために、ALTの交流や、実際に姉妹都市交流等を効果的に活用して、生きたコミュニケーションの場면을意図的に設定していくことが大切であると考えられる。

【参考文献・資料等】

- 学び方の科学ー学力向上に生かす AAIー 辰野千壽 著 図書文化社
 入門学習心理学 効果的な学び方・学ばせ方・改訂版 辰野千壽 著 図文新書
 考える力の伸ばし方・改訂版 辰野千壽 著 図文新書
 「本物の学力」を伸ばす授業の創造 北尾倫彦 著 図書文化社
 「指導と評価 ー学力調査の在り方ー」2011年02月号 図書文化社
 「指導と評価 ー学ぶ楽しさー」 2013年10月号 図書文化社
 「指導と評価 ー確かな学力ー」 2013年11月号 図書文化社
 「応研レポート No.73 学習指導に生かす新版 AAIー」 財団法人応用教育研究所
 中学校学習指導要領及び各教科解説（国語・数学・社会・理科・英語編）文部科学省
 「とちぎの子ども基礎・基本」習得状況調査（小・中）栃木県総合教育センター
 とちぎっ子学習状況調査 教科に関する調査結果 栃木県教育委員会
 中等教育資料、全国学力・学習状況調査各種解説資料及び報告書、他

研究員

【平成24～26年度】

※ 学校名は26年度に在籍した学校

- | | | | | |
|-----|--------|-------|--------|-------|
| ○国語 | 毛野中学校 | 山中 理江 | 山辺中学校 | 柳田 高史 |
| ○社会 | 山辺中学校 | 川田 博 | 協和中学校 | 澤田 貴子 |
| ○数学 | 愛宕台中学校 | 関口由規子 | 坂西中学校 | 近藤 典子 |
| ○理科 | 西中学校 | 遠藤 浩介 | 愛宕台中学校 | 齋藤 達也 |
| ○英語 | 第三中学校 | 石原 敦子 | 毛野中学校 | 櫻木 清日 |

指導者

【平成24・25年度】

- | | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| ○国語 | 大森 順子 | ○社会 | 柏瀬 和彦 | ○数学 | 中村 徳幸 |
| ○理科 | 赤坂 治之 | ○英語 | 高木 秀和 | | |

【平成26年度】

- | | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|----------------|
| ○国語 | 近藤 忠 | ○社会 | 片平 和義 | ○数学 | 中村 徳幸
岡崎佐季子 |
| ○理科 | 赤坂 治之 | ○英語 | 高木 秀和 | | |